



同窓会報

第 44 号

発行 宮城県仙台第二高等学校
同 窓 会
仙台市青葉区川内蔵橋通一
番二二―五五五―(直通)
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番三四号

大震災で立ち上がった 各界の同窓生

(その一)

編集部

始めます。

今年三月十一日に強い揺れと大津波に襲われた宮城県。二高同窓生、現役生の中に被害に遭われた方々もいれば、支援活動に取り組んだ方々も大勢いると思います。美術界、音楽界、スポーツ界で支援に立ち上がった同窓生もいます。そんな一人に、仙台と東京を拠点に活動している美術家タノタイガさんがいます。

連日、ブログで報告したところ、友人や美術家、知らない人が集まり、「タノンティア」と名付けたボランティアグループを作り、せんだいメディアテークの協力も得て、被災地でのボランティアに一層力を傾けていきました。仙台から石巻へ向かうバスの中では、タノタイガさんがマイクでガイドしたり、ボランティアのしおりを作ったりしたそうです。参加者もそれぞれの特技などを生かし、歌ができたり、バッジやうちわなどのグッズができました。

ボランティア活動で使った道具や、参加者の写真、活動を紹介する動画などは九月三十日から十月三十一日まで、せんだいメディアテーク一階で、「タノンティア資料室」として展示され、多くの市民が被災地の現状やボランティアの実態に触れました。



タノタイガさんがボランティアで使用したカッパや一輪車などを展示

アで宮城県沿岸の街の避難所や小学校に訪問演奏を行い、被災者の精神的な安定や日常回復をするために尽力しています。プロ野球界の横浜ベイスターズの江尻慎太郎さん(高48)は、被災各地にAED贈呈、宮城県への義援金寄付などをしています。

「今はアート作品に震災を表現する気持ちはない。震災がブーム化している現状も、十年たてば下火になる。そんな時こそ、自分が震災を作品として取り上げることになるかもしれない。」と話しています。

また、チェロ奏者の丸山泰雄さん(高35)が、ボランティアで宮城県沿岸の街の避難所や小学校に訪問演奏を行い、被災者の精神的な安定や日常回復をするために尽力しています。プロ野球界の横浜ベイスターズの江尻慎太郎さん(高48)は、被災各地にAED贈呈、宮城県への義援金寄付などをしています。

ように。あきらめずにやれば、協力してくれるはず。自分が正しいと思ったことをやり続けてほしい。」と話していました。なお、タノタイガさんは平成十五年度から平成二十年度まで、二高の美術講師を勤めています。年齢は公表していません。



タノタイガさんのボランティアの模様を写真や動画で紹介

(その二)

「ゆりあげ港朝市」

みなと

頑張ってます

ゆりあげ港朝市協同組合理事長

桜井 広行 (高25回)



震災当日は、子供の幼稚園の卒園式だった。PTAの役員をしていたので、謝恩会の後片付けをして帰宅する時、子供の友達も一緒に自宅まで来て遊んでいた。十四時四十六分、東日本大震災発生、子供の友達を家族に送り届けなければと思い、家族も車に乗せて家を出た。自宅では、停電のためテレビからの情報が途絶えていたが、車に乗ってラジオを聞くと、3mの津波、5mの津波、そして子供の友達をその家族に引き渡した時は10mの津波予想となっていた。公民館に避難していた人たちに「10mの津波が来るぞ。」と怒鳴るように知らせたが、意に介さない様子だったので、「とにかく、車のラジオを聞け。」と大声で訴え、十五時十五分ごろ公民館を後にした。家族を仙台バイパスまで連れて行かなければという思いだ

けがあり、閑上から仙台バイパスに向かったが、道路は大渋滞(のちに、閑上大橋での交通事故のためと分かった。)急いで亘理方面に向かい、仙台バイパスへ走れる道を必死に探した。どうにか仙台バイパスに辿りつき、十五時五十分ごろ閑上に押し寄せた大津波から逃れることができ、名取市内の妹のところに避難した。

当日、同じ閑上に住む姉と連絡が取れなかった。翌十二日、姉を探すため腰まで水に浸かりながら閑上小・中学校に向かったが、閑上の人たちは自衛隊の救助によって避難所に移っていた。避難所を探し回って、複数の人から姉の無事を確認することができた。避難所の人たちは、大津波の難を逃れて助かったことを喜び、お互いの無事に涙して暗い顔はなかった。ところが、

十三日、避難所を回ると様子が一変していた。避難所の人たちは悲愴な顔になっていた。食べる物がなかった。十二日はパン1枚、十三日はおにぎり1個だった。ゆりあげ港朝市協同組合が、閑上の人たちのために食料を調達しなくてはと立ち上がった。仙台仲卸「仙台大門」が、無償で二トンを車を提供してくれた。雪がまだ残る三月いっぱい(三月十三日・三十一日)ノーマルタイヤで燃料の調達にも苦労しながら、何処に行っても食料のないなか食料調達に東奔西走し、名取市内十個所の避難所に食料を届け続けた。調達した食料には、仙台市場で輸送できなくなった食料品、冷凍庫のなかで荷崩れを起こした冷凍品、山形の乾麺、白石の味噌・醤油等があり、毎日、食料調達に明け暮れた。のちに、避難所では朝夕二回の食事の提供が開始され、昼食分の食料の提供を続けた。

その最中、震災後、初めて「ゆりあげ港朝市」を三月二十七日(日)六時〇〇分〜九時三十分で開催した。震災後、しばらくの間、テレビに終日生活情報等のテロップが流れ、

「ゆりあげ港朝市」が開催される情報も流れて多くの人が来場した。出店は十一店舗あったが、生鮮食料品はほとんどなかった。会場に大型のテレビを設置し、閑上を襲ったあの大津波のビデオを放映し、閑上の受けた被害の甚大さを来場した人たちに見てもらった。テレビに映る大津波に並行して亘理道路を走る車に、「そっち行ったら、ダメだ。早く、逃げろ。」と思わず声を出す人もあった。

閑上を忘れられては困るという一念から、「ゆりあげ港朝市」をとにかく開催した。知人・友人も励ましに来てくれた。個人的に義援金を募るかとの話もあったが、断った。この大津波で孤児になった新入生が何人かいるので、その子供たちの支援をお願いしたいと頼んだ。後日、手紙が届



3月27日、震災後初の「ゆりあげ港朝市」、イオンモール名取エアリ

いた。「前の職場の仲間が、支援を申し出てくれた。今回の災害は、被害が甚大なため細く長い支援が必要と思うので、定期的に送金したいという申し入れがあった。」と、九月までに三回の善意が届き、皆さんに納得をして頂いた上で、閑上小学校のために使わせて貰うことにした。有難い話である。

九月二十四日(日)「ゆりあげ港朝市」は復興から半年が過ぎ、生鮮食料品の店舗も含め三十三店舗(震災前は五十一店舗)の出店があり、賑

いを取り戻しつつあった。好天にも恵まれて早朝からたくさんの人出で、魚を入れた白い発泡スチロールを抱えて動き回る人の姿が目立つ、半年前には想像できない光景だった。

被災した閑上の人たちが、全国各地から受けた恩は忘れない。一生かかっても返しきれない恩を受けたと思っている。朝市の開催に協力して貰った他の朝市とも新たな交流が

でき、今後この関係は大切に続けたい。九月にニューヨークで灯篭流しを行うという話があり、ニューヨークに行ってきた。その際、ニューヨークの宮城県人会の人たちと会い、3・11に因み11ドル義援金をアメリカ全土に募る提案を受けた。有難い話である。九月下旬、浜松で秋刀魚五千尾を無料で配布する企画があり、関連して講演を依頼された。当然、参加する予定だ。

出来ることは何でもやって、閑上が受けた恩のお返しと閑上が忘れられないように努めて行きたいと思う。閑上の復興は先のことと思うが、先ず、「ゆりあげ港朝市」を閑上港で開催できるように港の復興を願う。港を中心にした観光漁業を発展させ、閑上の人たちが閑上に戻る足掛かりを作りたい。これからもっと頑張らなければ。

被災生徒に対する お見舞金の引き渡し終わる

理事会

今年三月十一日に発生した東日本大震災により被災した在校生に対する同窓会会費からのお見舞金（詳細は本年度会報春季号に掲載済み）の学校側への引き渡しが次のように行われたので報告します。

まず、震災発生直後に判明した被災生徒三十三名については、六月八日（水）の午後、山下副会長（高8）

から庄司校長に百六十五万円（二人当たり五万円）が、また、その後判明した被災生徒三名分についても、八月三日（水）午後、鈴木邦夫副会長（高11）から庄司校長（高22）に十五万円がそれぞれ現金で引き渡されました。

これで今回の被災生徒に対する同窓会からのお見舞金合計百八十万円（三十六名分）の引き渡し完了したことになります。

庄司校長からは、「同窓会員の皆さんからいただいた貴重なお見舞金に對しましては

心から感謝しています。頂戴したお見舞金は、生徒達も有効に活用してくれることを念願しています」との謝意が表明されました。

今回のお見舞金の支出については、去る五月十四日（土）の評議員会で承認され、七月二日（土）に開催された同窓会総会で追認され、実施されたものです。

理事会としましても会員の皆様の温かいご支援とご協力に對してあらためて心からの感謝を申し上げる次第であります。

支部総会 同期会 開催報告

不惑から卒寿へ

青山 史朗（中40回）

一九四〇年卒の同期会が初めて開催されたのは五十三年秋まだ戦禍の跡も生々しい東京日比谷の陶々亭であった。在校中は軍事教練、大学に進学しては勤労奉仕、そして根こそぎ学徒出陣とまさに戦中派の代表として受難の青春時代を経験させられた仲間たちは、よくぞあの激しい戦いの中で生きのびてきたとの喜びがあふれ手を握りしめ再会を喜びあった。お互いの情報を確かめながら級友の安否を調べたところ、卒業生二百名のクラスに当たる四十八名の戦病死者数であった。当時三十才、不惑などとはまだ遠い先のことと思ひ、同期会の名前を「不惑会」としたが今となっては面映ゆい。

平成二十三年六月十一日、佐々木嗣郎君の呼びかけでメトロポリタン日に集まった面々は、間もなく九十、卒寿を迎えようとする老生九名で、お互いに残された余生も少なく、生前別離の思いをこめて旧交を温め合った次第である。

今あらためて我々世代の人生を振り返る時、戦前の醇風美俗の時代に育てられ、やがて軍国主義教育の洗礼を受けて戦場に赴き、そして敗残の身で故郷に帰ってきた。戦後の飢餓時代を乗り越え、ひたすら復興に力を注いだ結果、大好況の甘い汁も味わうことができた。その反動でバブル崩壊後の長い不況の波は消えることなく、国の前途を危ぶむ雰囲気さえあるところへ未



曾有の大地震と
なった。

これに対処する政治家のお粗末さは誠に腹立たしい限りでひたすら祖国の繁栄を祈り、特攻となつて散華した青山清・今野惣助両君を初め、同級の英霊たちに対し申し訳ない気持ちで一杯である。

第19回岩手県在住仙台二高（二中）・ 一高（一中）合同懇親会（同窓会）

鈴木 恒男（高5回）

今年も十九回となる標記の会が平成二十三年九月三日開催されたので報告致します。十九回目ともなるとお互い顔見知りが多くなり、今回も賑やかで楽しい会となりました。まずご報告をしなければな

りませんが、岩手北陵会の会長であられた氏家和国先生（中44）が本年四月四日に御逝去されました。これまで事務全般、母校への連絡、同窓会組織の運営など全てを会長におまかせしていましたので、

今さらながら先生の偉大さを痛感しております。心からの感謝と弔意を表します。

この日、会の前に臨時総会を開き、後任の会長職の協議をしましたが、これまで副会長の役にありました不肖鈴木恒男（高5）が会を預かることになりました。幹事長は橋浦礼二郎先生（高23）。今後は合議制を旨とし、岩手北陵会の目的である会員相互の親睦と母校仙台二高の発展に寄与することに心を傾けたいと思います。

今回、仙台二高本部からは鈴木邦夫同窓会副会長（高11）

が出席され、母校の全国的な活躍について意気揚々と話されたのが印象に残りました。一高側も本部から三名のご出席でした。

懇親会は今度も盛会で出席者の近況報告も楽しく、最後は校歌応援歌を唄って散会となりました。

仙台二高側出席者

佐藤 秀雄（高1）
和田 謙郎（高3）
小野 仁（高3）
鈴木 恒男（高5）
守屋 光雄（高9）
小林 秀樹（高11）
池野 達郎（高12）
佐藤 邦夫（高12）
相ノ山 隆（高22）
佐々木 宏（高23）
橋浦礼二郎（高23）
加藤 三博（高25）
長田 麗（高62）





医学部の学問、自由な研究、ボートも楽し

小丸 陽平（高58回）

平成十八年卒（高58）の小丸陽平と申します。現在東京大学医学部医学科六年に在籍中で、平成二十四年春卒業、医師免許取得予定です。医学部や院に進学した同級生にとっては、二高卒業から六年経つ二〇一二年が一つの区切りになるかと思っています。

ご存知の通り東京大学は、二年度に教養学部が制度として残っている数少ない大学です。教養課程は時間にも余裕があるので、興味に合わせて様々なことができます。私も駒場で初めて生命科学の基礎を学び、その面白さに惹きつけられました。また、哲学や芸術系の科目も楽しみながら選択し、一方で医学部ボート部では多くの時間を仲間と水上で過ごしました。京大医学部ボート部の大竹正悟君（高

59回）とは今でも東大京大対抗戦で年一回は飲み交わす仲です。

本郷の専門課程に進学後は解剖学や生化学、生理学等の基礎医学から始まり、次第に臨床医学の講義と試験があり、五、六年度には附属病院での実習がメインとなるカリキュラムになっています。大まかには「人体の正常」から「異常（病気）」へ、「座学」から「実学」へと順に学んでいくイメージでしょうか。専門課程は他学部と比べて試験も多く、講義も全必修で選択の余地がほぼないので、必然的に勉強する

時間は増えると思います。とはいえ、東大では自由に研究する期間や海外で研修す



人見秀君（左）と筆者、東大病院前にて。

る機会が与えられており、私も五年次には三ヶ月間アメリカに留学して貴重な経験を積みました。

卒業後は95%程度の学生が研修医として二年間のトレーニングに出ます。同級生の中には既に専門（科）を心に決めている人もいますが、現在の制度では卒業一、二年目に決めれば良く、私も大まかに内科系としか考えていません。研修後は、大学院に進学する、専門研修でさらに技術を磨く、留学する、開業するなど様々な道があります。

東大医学部の一学年上には、優秀の誉れ高い二高OBの佐藤達之先生と早川格先生（共に高57）がおり、一学年下には人見秀君（高58）がいて、仙台二高の名も浸透しつつあると感じます。今後さらに気

鋭の後輩がいらっしやることを祈念し、春の卒業に向けて励む（？）日々です。

二高生よ 来たれ 北のビジネス スクールへ

福田 和弘（高22回）

旅人の旅情を誘う北の町小樽。有名な観光スポットである。今の人口は約十三万人、ピーク時期は二十万人を超えた時期もあった。この小樽の丘の上にひっそりと佇む大学がある。小樽商科大学である。国立大学法人唯一の商科系単科大学であるが、昔から樽商の名で知られ、学生数約一、六〇〇名で、規模としては全国でも小さい方に属する大学の一つである。本年平成二十三年七月創立一〇〇周年を迎えた伝統ある大学の一つであり、小樽高商、小樽経専、小樽商大と連なる日本でも珍しいビジネススクールで、幾多の人材を産業界に送り出している名門校なのである。上場企業の社長を輩出した大学ではトップ10にも入るほどの実学重視の大学でもある。学部は実学重視のため商学部だけ

であるが、学科としては経済学科、商学科、企業法学科、社会情報学科等々がある。卒業生の就職率は抜群で、この未曾有の不況期にも一〇〇パーセントに近い就職率を誇っている。

私は二高在学中、高二の時に修学旅行に行かずに、思いつくまに北海道を旅し、港町の小樽に立ち寄り、丘の上から海（石狩湾）の見えるこの大学に憧れ、昭和46年入学した。当時は全学生でも一、〇〇〇人足らずであり、過半が北海道外出身の学生であった。南は沖縄、勿論北は北海道までの分布であった。自由な校風であったせいかわりた放題の四年間の学生生活を送らせていただいた。

卒業にあたっての就職活動も恵まれていて、ほとんどの大企業から卒業生（OB）の人事担当が募集に来てくれる有り様で、私も大手証券会社、商社、メーカー等から四社内定をもらう状況で、断る理由を探すのに苦労したものであった。

その後、家業を承継するので、入社した大手証券会社を四年で辞め、仙台に帰ってき

創立一〇〇周年に同窓会の宮城支部代表で久しぶりに母校の小樽商大を訪れた時に、学長をはじめとする大学関係者から現在の状況を聞くことになり、驚きを禁じ得なかった。

全学生の九十パーセント以上が北海道の高校から進学しているという事実であった。ましてや私の母校である仙台二高からの入学者は十年以上いないというのである。確かに同窓会の宮城支部でも私の先輩で仙台二高出身者は何人かいるが、後輩は皆無である。

大学関係者はかなりの危機感を持っており、帰仙されたら母校の仙台二高に小樽への進学をアピールしてくれとの要請もあり、この推薦になった訳である。

我が母校仙台二高は、東北屈指の進学校である。当然地元仙台や首都圏の大学を希望される二高生が多いと思うが、どうか商科、経済への進学を希望される後輩の皆さんの頭の片隅にでも「北のビジネススクール」小樽商科大学を心に留め、進学する大学の選択肢の一つとして、できれば入学を考えて頂ければ幸いである。

(仙台二高昭和45年卒業・ゲタの会)

ラグビー部創部八十周年



「ラグビー部目指せ全国大会」

岡崎 忠 (高12回)

今年は本校ラグビー部が創部されてから八十周年にあたります。我が仙台二高が、まだ旧制仙台二中であった昭和七年に創部されたものであります。その間に第二次世界大戦により三ヶ年程活動を停止せざるを得ない時代がありましたが、現仙台二高ラグビー部OB会会長の阿部忠仁氏(中47)の熱意とご尽力により、いち早く昭和二十一年に復活を成し遂げたのであります。

折りしも小生が母校仙台二高に勤務していた昭和五十七年が創部五十周年にあたり、五十年史「北陵」を編纂し、以後OB会は、在仙幹事の協力により、六十周年、七十周年にそれぞれ記念誌を刊行するとともに、記念祝賀会を開催して、会員相互の絆を固めてきたものであります。

当時の「仙二中のラグビー部の精神は飽くなき自己への挑戦である。」という教えは、現在の仙台二高ラグビー部にも綿々と受け継がれているものと考えております。このこ

とについては、仙台二高ラグビー部五十年史「北陵」に詳しく述べてあります。

国大会(インターハイ)出場は、昭和三十三年度の第三十八回大会(西宮)の一回のみであり、五十年以上も前のこととあります。この大会に小生も出場の機会に恵まれ大きな感激を受けたことを思い出します。是非後輩諸君にこの感激、感動を味わってもらいたいものと常々希求してきております。夢ももう一度、現役の一層の奮起を期待してい

るところであります。

創部八十周年にあたり、OB会員相互の親睦と現役を激励するため、記念祝賀会開催を計画いたしました。三月十一日の東日本大震災のため延期の止む無きにいたり、一年遅れで後述要領により開催することになりました。多数のOB会員が参加されますよう、この紙面を借りてご案内申し上げます。

「祝八十周年、ラグビー部仲間との再会を楽しみに。」

今野 由夫 (高22回)

平成二十一年の八月から一年五ヶ月程、仕事の関係で仙台で单身生活することになりました。仙台は生まれ育った土地でもあり、兄弟や友達もたくさんいる故郷なので、家族と離れて暮らす寂しさ以外は、暮らさに困ることはありませんでした。

休みの日は自由な時間がたっぷりあり、家でテレビを見てゴロゴロしているのは身体に良くないと考え、外で友達と会ったり、親戚回りをしたり、JRの「小さな旅」へ参加したり、仙台の名所旧跡巡りをしたり等で過ごしていました。

仙台市内を歩き回っていると、昔は微塵も感じられなかった広瀬川沿いの自然の美しさ、

季節の移り変わりに伴って変化する山の木々の色づきの見事さが、年のせいか鮮やかに感じられるようになりました。

そんなことを高校時代のラグビー仲間、猪股氏に話したら、塩釜・松島間を歩いてみないかとの提案があり、早速、仙台在住のラグビー部の同期に声をかけ、猪股氏、佐藤氏、鈴木氏に私を加えたおじさん達のハイキングを実施することになりました。

四人そろって顔を合わせるのはおおよそ四十年ぶりでありました。最初の挨拶「久しぶり！」は多少きこちありませんでしたが、歩き始めて数分後には、四十年前の高校時代に、当時の先輩達の逸話や練習中の出来事等、懐かしい思い出話に花が咲きました。終点の松島海岸では、街道沿いのお店に入り、周りの客に気にも留めずに、おじさんトークで大いに盛り上がり、実に楽しい一日を過ごすことができました。

高校生という多感な時代に

裸の付き合いをした仲間は、時間の壁を飛び越えて長く付きあえる人生の友であることを今更ながら感じさせてくれました。同時に仙台二高ラグビー部で高校生活を過ごすことができた幸せを改めて実感させてくれました。

「ラグビー部創部八十周年によせて」

江 刺 亨（高35回）

昭和五十六年、私が高校二年生時のラグビー部は岡崎先生指導の下にかく強く、春の県高校総体で念願の優勝を果たしました。当時は二高ラグビー部OBの方々が中心の北陵ラグビーというクラブチームがあり、常にこのチームの先輩方がグラウンドに顔を出し、週末には試合形式の練習をしてくださいました。体の大きな社会人の先輩方とのコンタクトは痛く、苦痛で仕方なかったのですが、これらの練習がチーム力の向上、結果

このたび、仙台二高ラグビー部創部八十周年にあたり、当時の同期、先輩、後輩と一堂に会して、仙台二高ラグビー部創部八十周年を一緒に祝いすることは、生涯の慶びであります。今から心待ちにしている昨今であります。

としての優勝に大きく寄与したことは言うまでもありません。そしてこの年に二高ラグビー部が創部五十周年を迎え、ホテルでの盛大なパーティーが行われました。当然現役の部員も全員で参加した訳ですが、その時は伝統であるとか先輩方のバックアップのありがたさなど考えることもなく、ただただパーティー会場に並んだ美味しいご馳走をお腹一杯食べたことだけが記憶に残っています。

卒業後は元旦の定期戦に顔を出す程度で、社会人になってからはラグビー部とは疎遠になっておりました。ところが、私は七年前に脱サラをして現在一番町で小さな居酒屋を経営しているのですが、噂を聞きつけラグビー部の先輩方や一緒にプレーした仲間が店に足を運んでくれるようになり、多くの方との再会を果たすことが出来ました。お酒が進むにつれて、口も軽やかになり昔の思い出話に花が咲きます。この楽しい時間を過ごすことでラグビー部の強い絆を感じられたことは、大きな幸せであります。そこでの話の詳細は紙面の都合上省かせていただきますが、現役の時には気付きもしなかった先輩方のラグビー部のために苦労されたこと・尽力されたことを初めて聞くたびに、感謝と共に歴史と伝統の重さを痛感せずにはおられませんでした。

それから時を経て今年で創部八十周年の節目を迎えます。この伝統を絶やすことなく、益々の飛躍のために何らかの形で微力ながらお手伝いしていければと考える次第であります。そしていつか後輩たちの花園での活躍の話を肴に昔の仲間たちと飲み明かしたいものです。

「仙台二高ラグビー部創部八十周年式典」

記

日時：平成二十四年

八月十一日（土）

四・〇〇pm

会場：江陽グランドホテル

会費：一〇、〇〇〇円

出欠の返事を江刺亨、

FAX、〇二・二六三・

〇五六三、sho-ya@w3.

tion.ne.jp までお願

いします。氏名、卒業回

を明記してください。



卒業生のアルバム、思い出の品



創立51周年記念大運動会 昭26(1951)年 4 月

◇仮装行列

高 4 回の田中宏氏から昭和二十六年の大運動会で仮装行列をしたクラスメイトの写真が届きました。「戦前と戦後を比較した仮装の企画でした。修身の教科書や戦闘帽姿、千人針の女性などは戦前、サングラスに鉢巻姿の風来坊やストリッパーは戦後の仮装です」と田中さん。校庭をパレードしたそうです。田中さんは後列右端で角帽をかぶり旗を持つ生徒です。



引率の教師 奈良 樫原神宮
昭26(1951)年 6 月 5 日

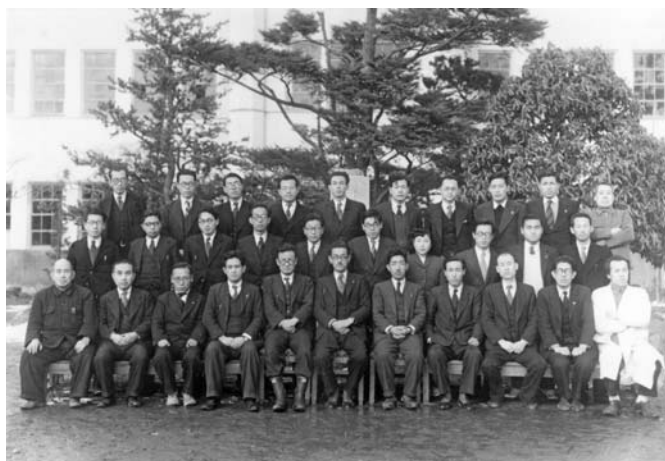
高 遠 上 高 樫
橋 藤 田 橋 原
(敬称略) (総) (二 郎)

◇修学旅行、校舎

同じく高 4 回の境野良吉氏からは、昭和二十六年の修学旅行、昭和二十七年の校舎、先生方の写真が届きました。修学旅行の写真は京都・清水寺での記念撮影です。校舎は真新しい姿が伝わってきます。周りの木々が小さいことが時の流れを感じさせます。



京都 清水寺 昭26(1951)年 6 月 6 日



教師の記念撮影 昭27(1952)年2月

※前列のみ
(敬称略)

遠藤 榊原 高橋(一郎) 齋藤 増田教頭 山下校長 島田 小針 横山 佐伯 桐原



修復成った校舎 蔵王池には雪も 昭27(1952)年2月



修学旅行の葉



生徒手帳

◇修学旅行の葉

高4回の境野良吉氏からは写真だけでなく、修学旅行の葉も届きました。わら半紙にガリ版刷りの葉です。六十年近く経て、すっかり茶色に変色しています。訪問先である宇治山田、奈良、京都、大阪、東京の手書き地図、名所や特産品の紹介文などがあります。各ページの筆跡が違い、分担して製作を進めたのでしょうか。携行品に「仁丹」、「米2升、パン食券10食分以上」などとあります。戦後間もない社会情勢がうかがえます。この年の修学旅行は北海道と関西の二手に分かれたよう、北海道の費用は二、七二〇円、関西へは二、八八一円とあります。また仙台―青森間が十一時間四十分、仙台―上野間が十時間とあり、新幹線と比べると雲泥の差です。

◇明治の生徒手帳

旧制中学の明治時代の生徒手帳も届きました。中学41回の三浦儀惣治氏の息子さん均さんが届けてくれました。均さんの息子の周さんも高45回の二高卒業生とのこと。生徒手帳は縦十三センチ、横九・五センチほどの大きさです。訓辞に始まり、細則として、校旗、勤学、敬礼、自治、容儀、願届、試験、清潔、宿所、父兄保護人、競技、雑件―と続き、最後に付録の学友会規則、眼疾の一つのトラホームに関する心得があります。「校旗には敬礼する」「始業の十五分前に昇校する」「敬礼は直立不動で」「学校が火事の時は参集して救護に当たれ」などあります。後年の生徒手帳と比較するのも面白いでしょう。

「江尻慎太郎君を励ます会」

二高OB唯一のプロ野球選手として横浜ベイスターズで活躍中の江尻慎太郎氏(高48)。彼の今季の活躍は目を瞠るものでした。両リーグを通じて屈指の登板数とホールド数を評価されオールスターに監督推薦により初出場。地元Kスタでの凱旋登板でパ・リーグの中心軸打者を三者三振に切って取った雄姿は、我々二高OBにとつてのプロ野球ベストシーンでした。八月に入り髄膜炎による戦線離脱があったものの九月には復帰し、ペナントレース終盤においても存在感を発揮しました。

そんな彼の今季の活躍を祝し、また来季のさらなる飛躍を期待して、左記の通り「江尻慎太郎君を励ます会」を開催いたします。例年、後援会が中心になって行ってきました。今年は硬式野球部OB会の青葉倶楽部が全面協力します。ぜひ、ご参加ください。

記

日時…平成23年12月18日(日)

午後五時より

場所…江陽グランドホテル

会費…大 人 七、〇〇〇円

夫 婦 一〇、〇〇〇円

中学生以上 三、〇〇〇円

小学生以下 無 料

(江尻慎太郎選手後援会)

※問い合わせは、事務局の菊田

健三さん(高22) 090・

7073・7290へ。

2011年度 同窓会費納入状況

平成23年10月25日現在

会 報 発送数口数 入金額				会 報 発送数口数 入金額				会 報 発送数口数 入金額				会 報 発送数口数 入金額			
中29	9	1	3,000	高 3	169	62	186,000	高24	211	27	81,000	高45	253	11	33,000
中30	4	2	6,000	高 4	199	72	216,000	高25	212	35	105,000	高46	239	16	48,000
中31	8	0	0	高5	193	63	189,000	高26	229	38	114,000	高47	261	14	42,000
中32	6	2	6,000	高6	211	71	213,000	高27	224	24	72,000	高4 8	244	7	21,000
中33	11	3	9,000	高7	178	49	147,000	高28	212	39	117,000	高4 9	261	10	30,000
中34	15	3	9,000	高 8	216	70	210,000	高29	200	21	63,000	高5 0	235	9	27,000
中35	17	5	15,000	高 9	219	72	216,000	高30	205	23	69,000	高51	228	13	39,000
中36	13	3	9,000	高10	263	78	234,000	高31	194	23	69,000	高52	217	11	33,000
中37	28	9	27,000	高11	263	106	318,000	高32	234	22	66,000	高53	244	11	33,000
中38	21	0	0	高12	158	69	207,000	高33	226	20	60,000	高54	248	9	27,000
中39	30	13	39,000	高13	222	65	195,000	高34	219	17	51,000	高55	247	22	66,000
中40	46	10	30,000	高14	256	83	249,000	高35	228	13	39,000	高56	258	20	60,000
中41	47	14	42,000	高15	244	63	189,000	高36	224	27	81,000	高57	270	19	57,000
中42	55	28	84,000	高16	248	51	153,000	高37	215	12	36,000	高5 8	285	23	69,000
中43	56	21	63,000	高17	248	63	189,000	高3 8	217	18	54,000	高5 9	284	19	57,000
中44	77	27	81,000	高18	239	47	141,000	高3 9	219	17	51,000	高6 0	285	27	81,000
中45	94	31	93,000	高19	218	49	147,000	高4 0	229	18	54,000	高61	296	35	105,000
中46	96	23	69,000	高20	199	35	105,000	高41	237	10	30,000	高62	303	43	129,000
中47	116	22	66,000	高21	263	56	168,000	高42	250	12	36,000	高63	314	61	183,000
高 1	118	29	87,000	高22	298	65	195,000	高43	224	16	48,000	合 計	15,317	2,449	7,347,000
高 2	147	39	117,000	高23	199	49	147,000	高44	219	14	42,000				1口 ¥3,000-

今年も憂慮会費納入状況

昨年の会報43号で会費納入を訴える記事を掲載することにも、例年は同封しない会費振込用紙を同封したところ、納入者が続々と現れ、平成二十二年年度決算では予算を大きく上回る会費収入を得ることができました。理事会としては、会員皆さんの納入意識が向上したと喜んだところでしたが、二十三年十月時点での納入状況は一年前と同様、芳しくありません。44号でも、会員の皆さんに窮状を訴えなくてはいけない情勢です。

平成二十二年年度予算で二千八百口、八百四十万円を見込んだ会費収入でしたが、昨年十一月十日現在の会費納入は二千五百三十九口、七百六十一万七千円と、危機感を抱かざるを得ない状況でした。しかし、会報での訴えが功を奏したか、決算では三千五十七口、九百十八万九千円と予算比八十万円弱の増となりました。これも、母校と同窓会を愛する会員の皆さんのお力と感謝するところです。

ところが、別表の通り今年十月二十五日現在のまとめでは、二千四百四十九口、七百三十四万七千円に過ぎず、昨年より強い危機感を持っています。このままでは、昨年考えた①会報発行回数の削減②総会補填費の削減③地区総会旅費・祝儀の削減④校内活動助成金の節減などを再び真剣に検討しなくてはなりません。

今年度の会費納入はまだまだ受け付けています。ぜひとも、ご協力ください。会員一人一人の自覚、地道な声掛けが頼りです。同期、部活動OB会、職場・団体、地区支部などのつながりをたどり、会費納入増に尽力くださるようお願いいたします。

また、会費納入増にご意見、妙案のある方は理事会までお寄せください。

今回の会報にも会費納入用紙を同封いたします。既に納入済みの方にも届いた場合、どうかご容赦ください。

(理事会)

**会費納入は郵便局
でも銀行でも可能です**

〔郵便局〕
記号番号

02290・4・13168

宮城県仙台第二高等学校同
窓会

〔銀行〕

七十七銀行 芭蕉の辻支店
普通口座

宮城県仙台第二高等学校同
窓会 会長 西澤潤一

店コード 204

口座番号 0097845

なお、振込みの際にはお名前、及び卒業回期、または卒業年（〇〇年三月卒業）を必ずご記入ください。振り込み額は振り込み手数料を差し引いた額としてください。

同窓会総会 報告

平成二十三年七月二日（土）

十七時～

江陽グランドホテル

出席者七十四名

◇開会

◇報告 山下副会長（高8）
会報発送遅れのおわび

◇校長あいさつ
庄司恒一氏（高22）

「日ごろの物心両面にわたる支援に感謝する。一〇周年事業にご尽力いただいた中條理事（高27）のご逝去は極めて残念だった。地震、津波で人的被害はなかったが、家

族、自宅などへの被害があった。ケアするのは三十六人。生徒はめげずに活躍しており、これからも復興に向けて生徒、職員とともに頑張って参りたい。」

◇来賓紹介

◇激励金贈呈

◇議長選出

麻喜宏雄副会長（高9）

◇協議

第一号二十二年事業報告、
第二号二十二年決定算

①一〇周年事業に特別会計から一五〇万円繰り入れ、
一七〇万円弱支出②会費の次年度分支払いで、一一五万

〇〇〇円の預かり金が発生し、
などと説明。

監査報告―犬飼監事「帳簿類の調査、会計理事からの説明などから適正だった」

【質疑】
・項目ごとの前年度比の数字がほしい。↓次回から対応。
第一号、第二号議案を拍手で承認

第三号二十三年事業計画、
第四号二十三年度予算

名簿業者サラトから協力金三十万円があった。特別会計に二〇〇万円戻すが、うち一八〇万円を被災生徒に贈った。
（@五万円、三十六人）

第三号、第四号議案を拍手で承認

第五号理事選出

理事選考委員会の小山委員長（高8）が報告。

拍手で承認

◇報告

・義援金について…同窓会として集めない。ただし、見舞金を贈った。個人的に同窓会あてに届いたお金は、個人あての分は個人へ、学校への場合は、環境整備基金に入れる。（理事会）

・硬式野球部OBの横浜ベイスターズの江尻慎太郎氏（高48）の激励会を今年十二月に開くので出席をお願いしたい。（青葉倶楽部）

【平成二十三年年度懇親会】
七月二日（土）十八時～
江陽グランドホテル

出席者八十五人

司会進行 長崎裕（高34）

◇物故会員の冥福を祈り黙祷

◇開会の辞

◇校歌斉唱

◇当番幹事代表挨拶
山田修一郎（高22）

◇乾杯

◇アトラクション ギター弾き語り 高橋佳生様

◇応援歌 高22、34、35 応

援団幹部OB

◇万歳三唱 佐藤茂副会長（高28）

◇閉会の辞

評議員会 報告

平成二十二年第三回評議員会
平成二十二年十二月四日（土）

◇議長選出 高橋賢（高17）

◇協議

第一号議案

理事選考委員の選出

中学・高校10、高11・20、
高21・30、高31以降の世代別に選出

中・高10 柴田克彦（高1）、
小山恒明（高8）

高11・20 高橋和男（高13）、
高橋賢（高17）

高21・30 内藤清秀（高21）、
岡崎正行（高28）

高31 太田康裕（高31）

・選考委員も理事になれることを確認

・選考委員を追加する際は委員会に委ねる、オブザーバーを認める、理事会から世話人として出席する―をルールとする。

・理事会の態勢について…副会長が担当分野を総括する

臨時総会、PTA・同窓会
合同新年懇親会開催の
お知らせ

臨時総会日時

平成二十四年

一月二十日（金）

十七時三十分～

PTA・同窓会合同新年懇親会日時

平成二十四年

一月二十日（金）

十八時二十分～

臨時総会・懇親会会場

江陽グランドホテル

四階「銀河」

同窓会事務局

FAX 〇三―三二―五六八六

電話 〇三―三二―五六五一

△地下鉄広瀬通駅下車西
1番出口徒歩0分△
会費 五、〇〇〇円（予定）
奮ってご参加ください。参加希望者は十二月二十二日（木）まで、同封の申込用紙でFAX送信または電話で同窓会事務局までご連絡ください。

態勢で、現在十二人の十人が望ましい。時間的にフリーになれる人が三人はほしい。

(理事会)

第二号議案

◇その他

◎同窓会への後援要請…OBのピアノストから要請があり、文化芸術的なものであり、同窓会のPRにもなるので、評議員会へは事後報告となるが承諾した。

今後、宗教、企業、政治にかかわるものは駄目だが、文化芸術にかかわるものは承諾していきたい。(理事会)

了承

◎北陵館の雨漏りについて…三年ほど前からエントランスで雨漏りする時がある。補修予算があるかもしれない。(理事会)

(理事会)

・同窓会費にメンテナンス費を計上してほしい。
・施設は十年保証となっている。第一義的にはそれで対処したい。

平成二十三年度第一回評議員会
五月十四日(土)

九時三〇分

◇議長選出

太田康裕氏(高31)

◇協議

第一号議案 平成22年度事業報告 原案通り承認

第二号議案 平成22年度収支決算報告 原案通り承認

意見など 項目ごとの前年度比の数字も出してほしい。

第三号議案 平成23年度事業計画案 原案通り承認

第四号議案 平成23年度収支予算案 原案通り承認

第五号議案 東日本大震災義援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

理事選考委員会の小山明恒委員長が説明し、賛成多数で原案承認

援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

理事選考委員会の小山明恒委員長が説明し、賛成多数で原案承認

援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

理事選考委員会の小山明恒委員長が説明し、賛成多数で原案承認

援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

理事選考委員会の小山明恒委員長が説明し、賛成多数で原案承認

援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

理事選考委員会の小山明恒委員長が説明し、賛成多数で原案承認

援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

理事選考委員会の小山明恒委員長が説明し、賛成多数で原案承認

援金の募集について

個人に対する支援は被害の基準設定が難しい、校内環境整備基金に集約した方がやりやすい、ヨット部の被害が甚大—などの意見が出た後、中條理事が①義援金は募集しない②学校設備へは、校内環境整備基金を充てる③生徒個人へは特別会計繰入金から見舞金として支出する④生徒個人への長期的支援は奨学会と相談しながら進める⑤ヨット部については、会報に支援要請の寄稿をしてもらう—と集約。執行部一任。

第六号議案 理事の選出

◇連絡・報告

・一一〇周年記念事業報告

・同窓生名簿発送状況

情報提供が生かされず質が落ちていくとの指摘あり。

・校内環境整備基金の納入・支出状況報告

・会報春季号編集作業中間報告

・総会は七月二日

平成二十二年十一月十日(水)

・次期理事選考方式についての協議

・母校創立一一〇周年記念事業への同窓会の取り組みについての協議

・同窓会会費の納入向上策についての協議

平成二十二年十二月三日(金)

・次期理事選考方式についての協議

・母校創立一一〇周年記念事業への同窓会の取り組みについての協議

・同窓会会費の納入向上策についての協議

平成二十二年十二月三日(金)

・次期理事選考方式についての協議

・母校創立一一〇周年記念事業への同窓会の取り組みについての協議

・同窓会会費の納入向上策についての協議

平成二十二年十二月三日(金)

・次期理事選考方式についての協議

・母校創立一一〇周年記念事業への同窓会の取り組みについての協議

・同窓会会費の納入向上策についての協議

平成二十二年十二月三日(金)

・次期理事選考方式についての協議

・母校創立一一〇周年記念事業への同窓会の取り組みについての協議

・同窓会会費の納入向上策についての協議

平成二十二年十二月三日(金)

・次期理事選考方式についての協議

・母校創立一一〇周年記念事業への同窓会の取り組みについての協議

・同窓会会費の納入向上策についての協議

平成二十二年十二月三日(金)

・次期理事選考方式についての協議

理事会等記録

についての協議

平成二十三年四月十三日(水)

・二十二年決算概況と二十三年度予算

年度前半、会費納入が低調だったが、後半回復。会費増収に努力することを前提に二十二年並みの予算を計上する。

会報は従来通り年二回発行。

・同窓生名簿発送状況

福島、宮城、岩手の三県を除き四月上旬に発送済み。三県は四月中の発送を目指す。

・東日本大震災義援金について

平成二十三年五月十三日(金)

・第一回評議員会日程 五月十四日(土)

平成二十三年五月十三日(金)

・平成二十二年事業報告及び同決算報告事項の確認

・平成二十三年事業計画(案)及び同予算(案)についての確認

・次期理事の選出についての協議

平成二十三年五月十三日(金)

・第一回評議員会日程 五月十四日(土)

平成二十三年五月十三日(金)

・平成二十二年事業報告及び同決算報告事項の確認

・平成二十三年事業計画(案)及び同予算(案)についての確認

・次期理事の選出についての協議

平成二十三年五月十三日(金)

・第一回評議員会日程 五月十四日(土)

平成二十三年五月十三日(金)

・平成二十二年事業報告及び同決算報告事項の確認

・平成二十三年事業計画(案)及び同予算(案)についての確認

・次期理事の選出についての協議

平成二十三年五月十三日(金)

・第一回評議員会日程 五月十四日(土)

平成二十三年五月十三日(金)

・平成二十二年事業報告及び同決算報告事項の確認

・平成二十三年事業計画(案)及び同予算(案)についての確認

・次期理事の選出についての協議

平成二十三年五月十三日(金)

確認

・東日本大震災被災者に対する支援についての協議

・同窓生名簿の発送状況等についての協議・確認

平成二十三年七月一日(金)

・同窓会総会(7/2)への付議事項全般についての確認

平成二十三年七月二十四日

・副会長の選任

・新たに判明した被災生徒への見舞金について

平成二十三年八月二十四日

・理事会の会務構成及び会務分担についての協議

平成二十三年九月十四日(水)

・理事の会務分担

・会報44号↓12月1日発行

・PTA同窓会懇親会の日程は平成24年1月20日

・岩手北陵会出席報告…鈴木邦夫副会長

平成二十三年九月十四日(水)

・理事の会務分担

・会報44号↓12月1日発行

・PTA同窓会懇親会の日程は平成24年1月20日

・岩手北陵会出席報告…鈴木邦夫副会長

平成二十三年九月十四日(水)

・理事の会務分担

・会報44号↓12月1日発行

・PTA同窓会懇親会の日程は平成24年1月20日

・岩手北陵会出席報告…鈴木邦夫副会長

平成二十三年九月十四日(水)

・理事の会務分担

・会報44号↓12月1日発行

・PTA同窓会懇親会の日程は平成24年1月20日

・岩手北陵会出席報告…鈴木邦夫副会長

平成二十三年九月十四日(水)

・理事の会務分担

・会報44号↓12月1日発行

理事紹介



会則改正後の一期目に選ばれて以後今三期目に理事

に推された高11回の鈴木邦夫

会則改正後の一期目に選ばれて以後今三期目に理事

に推された高11回の鈴木邦夫

会則改正後の一期目に選ばれて以後今三期目に理事

です。

同窓会の活動は会員相互の親睦と母校への物心両面にわたる支援の二本柱であると考

えています。組織については

同窓会の活動は会員相互の親睦と母校への物心両面にわたる支援の二本柱であると考

えています。組織については

評議員会・総会への出席者増を図り活性化に繋げたいと思っています。一方母校については現在共学化した現役に卓球部コーチとして接しておりありますが、母校との一層密な係わりとなるよう努めていきたいと考えています。尚活動の基盤となる同窓会会費について、ここ近年三千人前後の各位の浄財によって成り立っていますが一層の増収となるよう努めたいと思っています。

(高11回 鈴木 邦夫〓新任)



高21回の枡澤です。熟慮することなくあっさりとした

このような大役を引き受けてしまっただけだったのかなと思いがちですが、引き受けた以上は精一杯母校と後輩のためにベストを尽くそうと決意している次第です。

五月に急逝された前理事の中條氏から正月のP同窓の折だったか、同窓会の手伝いをしてみないかと話が合った際、側面から応援するからと受け流したことがありました。今考えると、あれが伏線だったのかなと思います。

課題は山積ですが、全理事が明るく、活気ある同窓会づくりで一致していますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(高21回 枡澤 慶悦〓新任)

この度、副会長に推挙されました高22回卒の鈴木誠一です。「明るく楽しい同窓会」作りの為に、「活性化」をキーワードに、知恵を絞り、汗をかきます。

一、母校への物心両面の支援、母校と同窓会の発展に寄与します。

二、若い世代、女性会員が気軽に楽しく集える同窓会をめざします。

三、横軸の回期、縦軸のクラブの常任委員の充実を図り、ネットワークを広げ、隠れた多くの同窓生に同窓会への関わりを持っていただきます。

議論する理事会からスピードを旨とした素早く意思決定して実行する理事会を目指します。よろしくご指導のほどお願いします。

モットー／万象我師。完全燃焼。あなたとの出会いを大切にします。

趣味／ジャズ演奏(テナーサクソ)。ラグビー。読書。ホームページ作り。

(高22回 鈴木 誠一〓再任)

「西澤会長付き」ということで留任となりました。全力で会長をお支えする所存です。

(高8回 山下 健二〓再任)



理事選考委員会のご推薦により新しく理事になりました高橋和男です。

どうぞ宜しくお願いいたします。

県財政が窮屈な中、又今回の東日本大震災の中、官費による学業環境強化はなかなか難しい状況にあると思われる。

同窓生の親睦はもちろんですが、現役生徒諸君のため、同窓会が何をやるのかを学校と共に模索検討し、実行してゆく所存です。その為にも

会費、整備基金等同窓生の暖かいご支援ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

学業部活とも、ガンバレ！北陵健児。

(高13回 高橋 和男〓新任)



この度同窓会の理事という身に余り過ぎる大役を仰

せつかった高18回(イッパチ会)の前野文男です。

私の様なものが理事などという二高には人材がいなかったかと思われそうで心配です。

しかし、なった以上は他の理事諸兄と力を合わせて同窓会の活性化に向け微力を尽くしたいと考えています。幸い

理事会のメンバーは皆さんやる気がある人ばかりなので、

いろいろなことにトライできそうです。

任期中には若いOBを含め最低でも二〇〇人以上は集まっていただけの総会を目指しますので同窓生諸兄の絶大なご協力を切に願う次第です。

(高18回 前野文男〓新任)



平成二十三年度同窓会総会で、理事に選出いただきました

ました高22回卒(ゲタの会)の山田修一郎です。

二十四年前の同窓会当番幹事の時、初めて同期生が集

まりゲタの会が発足しました。その後現在に至るまで、飽きもせず毎月同期生が集まって楽しんでいきます。

ゲタの会発足のきっかけを作ってくれました母校と同窓会に感謝し、恩返しのためにも、明るく楽しい活発な同窓会を目指し微力ながら頑張りたいと思いますので、皆様方のご指導、ご協力よろしくお願ひします。

(高22回 山田修一郎〓新任)

故中條克浪さんに「次も一緒にやろう」と声を掛けられて引き受けました。中條さんの足元にも及びませんが、微力を尽くします。

(高30回 高橋 敦〓再任)



平成二十三年度の同窓会総会で、理事に選出されま

した高38回の関裕介です。卒業以来、同窓会活動とは無縁でしたが、昨年度、創立一〇周年記念事業のお手伝いを(半ば強制的に)させてもらっ

たのがきっかけで、母校愛に目覚めたようです。東日本大震災後、急に仕事

が忙しくなり、思うようにお手伝いができない状態が続いています。二高生や同窓会のために頑張りたいと思いますので、皆様のご指導をよろしく願います。

(高38回 関 裕介〓新任)



この度新しく理事を勤めさせていただきます、高校

48回の佐藤漸です。伝統と格式のある同窓会の中で私はまだまだ若輩者。諸先輩方のご指導とお力添えを頂戴しながら、同窓会の更なる発展のために寄与していく所存です。

七月の総会において会計理事に再任されました、高校40回の鈴木得央です。ここ数年減少傾向にあった年会費納入額も昨年久々に増加に転じました。今後でもできるだけ多くの方に年会費を納めていただき、そして同窓会活動に参加していただけるよう努力していきたいと思えます。よろしくお願いします。

(高40回 鈴木 得央〓再任)

家族と仙台の街並みと仙台二高をこよなく愛しております、どうぞよろしくお願い致します。

(高48回 佐藤 漸〓新任)

叙 勲

旭日小綬章

瑞宝小綬賞

故

羽田 兵吉殿 (中38回)

武山 章殿 (高2回)

有川 晋殿 (高3回)

石附 成二殿 (高11回)

渡辺 顕悦殿 (高2回)

受 章

黄綬褒章

菅野 昭雄殿 (高13回)

同窓生からの

寄贈本の御紹介

●名取達夫著

「キリストと歩いた

三十年」

「感謝」

「放蕩息子的一生、

美しい人生」

名取 達夫殿 (中40回)

●後藤育弘著

川柳句集「茜雲」

後藤 育弘殿 (高10回)

●同人誌

「花野抄」13集

加藤 邪吞 (文彬) 殿

(高11回)

●佐野督郎著

「はつ夏の長き夕暮れ」

佐野 督郎殿 (高13回)

●落合道夫著

「共産主義からの解放」

落合 道夫殿 (高14回)

「遙けき道に誇りありー宮

城県第三女子高等学校の歴史と同窓会活動記録」

元宮城県第三女子高等学校

同窓会会長 小関友子殿

編集部からのお願い

— 投稿・情報提供をお待ちしています —



会報は同窓生の皆さんでつくり上げるものです。地域や職場、同期、部活動OB会などの開催報告や活動報告、北陵健児の行くところ(進学編、職業編)のほか、二中・二高時代の思い出、母校への思いなどを寄せてください。積極的な投稿をたくさんお待ちしております。写真があると紙面が華やき、活力がでます。

「北陵健児の行くところ」は八〇〇字程度で、写真一枚ぐらい。進学編は①在学中の大学の様子②自らの学

生活ぶり③何を学んでいるかーなど、職業編は①職場や働いている分野の紹介②担っている業務の概要③社会人になって役立っている二中・二高時代の経験ーなどを書いてください。

また、「応援歌探訪」「卒業生のアルバムから」のコーナーに、応援歌についての情報提供、皆さんの思い出あふれるアルバムからの写真提供もお待ちしております。

応援歌については、①作詞者②作曲者(または元歌)③制作時期④制作の動機ーな

電 話

〇二二・二二二・五六六一

F A X

〇二二・二二二・五六八六

原稿送付先

九八〇一八六三一

仙台市青葉区川内澁橋通一

仙台二高同窓会事務局

会報担当あて

校内環境整備基金のお願い

秋の気配も深まり朝夕一段と寒さを感じる今日この頃皆様には誠に御慶び申し上げます。

また、この度の東日本大震災で被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

さて、母校創立一〇周年記念事業の一環として校内環境を整備する為、評議員会、総会の承認を頂き基金を作り母校を後押しすることになりました。石碑（文武一遵）は記念式典に間に合いました。数多くの方々よりご協力を頂きまして、当初予定しており不足した金額にはまだ届かない状況です。北校庭整備については費用の一部が不足しております。募集期間が残り一年数ヶ月になりました。お忘れの方、振替用紙をなくされた方、用紙を同封致しましたのでご協力頂きたくお願い申し上げます。先の大震災の為、県費による整備進行は難しい状況です。このところをご推察頂きまして母校現役仙台二高生の勉学、部活動のため、重ね重ねお願い申し上げます。尚、今後ご寄付頂いた方々の氏名も順次掲載いたします。

一、募集金額 一口一、〇〇〇円、三口以上

二、期間 平成二十二年四月～平成二十五年三月

三、納付先 仙台三高 校内環境整備基金

(郵便振替) 口座番号 .. 02230・6・108158

御芳名簿

掲載漏れなどがありましたら、ご容赦ください。ぜひ、お知らせください。

[illegible]

猪狩 武	石川 順一	小室 盛男	今野 満志	佐藤 隆輔	鈴杵 明夫	芳賀 欣哉	三塚 浩三	山口 啓一	山田 明之	吉岡 克義	渡辺 宏	[高6]	安在 博	太田 誠	小関 洋	清野 英一	梶田 章夫	土岐 満夫	中沢 文秀	馬場 盛司	本郷 正男	村井 康彦	山田 正道	渡辺 穎悦	[高7]	相原 正雄	阿部 博之	大島 春彦	大橋 啓佐	大久 宗	小笠原 善孝	鳥越 重雄	中谷 義信	松浦 清高	村上 幹夫	山上 秀雄	吉田 敦彦	[高8]	橘橋 一郎				
											今井 正道		奥山 隆生	鎌田 政見	小斎 博	佐伯 康全	鈴木 隆一郎	高橋 恒寿	竹谷 晋	千坂 知行	手島 忠	山下 勇	和泉 健二	渡辺 勝也		明石 誠	阿曾 宏太郎	伊藤 文彦	及川 二郎	大柳 裕	岡村 裕	奥田 潤一	日下 豊顕	斎藤 直	佐藤 耕敏	佐藤 徳夫	白根 昭男		菅原 通夫	丹野 兼夫	近田 博生	早坂 義信	針生 尚
菅原 俊秀	鈴木 衛	鈴木 實	千葉 茂雄	芳賀 成	山田 哲義	吉岡龍太郎	[高11]	阿部 一久	海老名卓三郎	遠藤 堅治	大泉 雅靖	大黒 直久	奥村 紀男	勝倉 敏夫	菊地 公一	小松 富士厚	米地 稔	佐藤 晴夫	鈴木 壮夫	鈴木 邦夫	高石 祥二	高橋 五十郎	高橋 宏明	只野 喜男	寺島 尚	中井 照実	福原 卓彦	古谷 求己	宮崎 清則	本吉 和康	館田 治	山本 昌雄	[高12]	相澤 鉦	相澤 昭三	池田 隆義	池野 達郎	熊谷 眞人	佐々木協二	志賀潤一郎	林 義人		
堀内豊太郎	三好 英吉	山崎 匡	渡辺 義勝	[高13]	大原 勲	川瀬 尚		川村 人志	菅野 昭雄	菅野 實	熊谷 芳郎	近藤 孝則	佐藤 重邦	渋谷 敬吾	新妻 信明	高橋 和男	中村 恒郎	山岸 規昭	横山 遠平	吉田 憲世	[高14]	明石 稔	伊東 功雄	今井 隆雄	江口 裕	若井 正朗	及川 勝利	小野 武弘	菊池 英明	黒須 史朗	佐々木文秀	佐々木育夫		高橋 聡	高橋 豊広	谷井 迪郎	千田 正義	齊 恒夫	三井 精一	宮下 公	山下 勝郎	渡辺 剛久	[高15]
笠原 甲一	小林 英器	西條 昭将	齊藤 敏一		佐藤 憲一	佐藤 皓	洪谷 正史	田中於菟彦	千葉 亨	平田 一夫	吉沢 正雄	[高16]	赤羽 亮哉	江橋 健一	大浦 昭一	扇畑 勝行	小泉 純一	白石 理	高橋 和明	沼倉 清士		[高17]	相澤 拓男	伊藤 健一	犬飼 健郎	神 久和	岸 浩	蛭名 謙一	佐川 久美	櫻井 久美	佐々木和義	佐藤 正弘	佐藤 嘉彬	菅原 盛幸	高橋 賢	手嶋 達宏	日野 光兀	福島 甫	星子 英俊	真壁 春雄	森 彦彦	浅野 史郎	
斎田 博	佐々木興志夫	佐藤 和男	佐藤 韶矩	島貫 光信	鈴木 俊郎	関口 和彦	武山 眞	常盤 峻士	富沢 信重	平野 英生	前野 文男		横山光太郎	鷺尾 健治	[高19]	久保田利道	杉山 浩二	鈴木 茂	[高20]	荒川 雅博	遠藤 重厚		大澤 道夫	佐藤久一郎	志伯 知伊	鈴木 義博	柴原 武	常盤 一之	芳賀 誠	山口 哲男	[高21]	浅野 清	市川 壽夫	岡村 哲	小川 健	小宮山英一	坂下 徹雄	西嶋 正幹	柊沢 慶悦	武東 哲	吉田憲三郎	[高22]	阿部 友彦

加藤 幹夫	伊藤 規雄	阿部 孝一	三浦 徳之	田部 康喜	齊藤 博	植田 弘	小野 博康	目黒 吉宏	広瀬 健美	日野 宏	千原 哲郎	今野 一郎	今野 克二	金澤 順	小野寺壽男	油井 龍一	村田 文彦	三浦 勝彦	松井 裕	橋浦礼二郎	武田 秀伸	高橋 邦尚	大山 匡	山崎 一憲	山田修一郎	丸 博史	三浦 秀秋	西山登喜雄	藤井 文隆	鈴木総一郎	高橋 和義	杉館 俊彦	菅野 信三	庄司 恒一	佐藤 秀一	佐々木重信	齋藤 重信	熊谷 晴樹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
菊地 一郎	亀谷 裕敬	石川 拓	小野 泰弘	井上 隆	渡邊 徹	吉田 純一	松本 一智	高橋 敦	菊地 充	横山 信治	山本 敏	寺崎 公二	熊谷 幸弘	甲斐根將志	天野 宗謙	波辺 耕治	畑岡 拓	長谷川 庸	千葉 知浩	黒澤 真一	菊池 雅之	片平 善弘	岡崎 正行	大久保幸弘	浦山 幸樹	和田 恒明	渡辺 正	山城 芳広	沼畑 光毅	中條 克浪	高橋 健司	佐藤 純生	氏家 邦夫	阿部 孝	相澤 敏也	森田 尚志	熊野 武彦	熊野 善介																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
戸田 秀明	菅谷 行宣	林 一章	照井 麻樹	飯野 直樹	海谷 厚志	飯野 俊之	佐藤 典昭	佐藤 尚久	熊谷 寿光	加島 聡	小笠原春彦	阿部 利樹	毛利 邦仁	関 浩太郎	佐藤 英悦	栗原 満	浅野 智彦	熊谷 洋	水野 浩	鈴木 泰生	伊藤 彰則	和泉 透	相原 智康	松尾 久顕	平間 誠司	丹羽 正嗣	武田 達哉	栗栖 達哉	菊地 哲久	八巻 智之	日野 克彰	道隆	千葉 純哉	谷松 正樹	小松 弘人	古賀 敬康																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
佐藤 哲也	畑川 昇平	牧野 尚彦	半沢 政毅	吉澤 武志	原田 匡一	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	小川 学	荒谷 健一	櫛引 智雄	間瀬 晃	太長根嘉紀	石山 理	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理	太長根嘉紀	間瀬 晃	櫛引 智雄	荒谷 健一	小川 学	石森 勉	椎名 智彦	水澤 岳彦	原田 匡一	吉澤 武志	在京ケタの会	唐橋 一人	大宮司之明	その他	吉田 憲造	三島 卓郎	畑岡 進	橋本 和英	長井 仁悟	須田 優二	菅原 健彦	齋藤 真帆	熊谷 輝	伊藤 裕樹	藤倉 裕樹	熊谷 裕樹	山本 讓司	丸山 齐	櫻井 一弥	山口 篤	米地 敦	嘉数 太郎	松谷 重輝	嘉数 太郎	勅使瓦 康	山口 篤	米地 敦	櫻井 一弥	丸山 齐	山本 讓司	石山 理

部 活 動 の 成 果

運 動 部 成 績

大会名		平成22年度		平成23年度	
部 名	新 人 大 会 等	定期戦	総 合 体 育 大 会 等		
硬 式 野 球 部	秋季中部地区トーナメント 1回戦 仙台二 1 - 0 泉 2回戦 仙台二 0 - 4 仙台 敗者復活戦 1回戦 仙台二 9 - 4 東北生文大高 2回戦 仙台二 7 - 4 榴ヶ岡 決定戦 仙台二 3 - 7 塩竈	仙台二 仙台一 3 - 2 勝ち 29勝28敗	選手権大会 2回戦 仙台二 6 - 0 松島 3回戦 仙台二 2 - 7 大崎中央 秋季大会 2回戦 仙台二 0 - 7 仙台三 敗者復活戦 1回戦 仙台二 6 - 5 東北生文大高 2回戦 仙台二 7 - 0 仙台工業 決定戦 仙台二 2 - 4 仙台商業		
	軟 式 野 球 部	秋季大会 1回戦 仙台二 1 - 5 仙台	仙台二 仙台一 2 - 4 負け	選手権大会 1回戦 仙台二 2 - 4 仙台一 秋季大会 1回戦 仙台二 2 - 1 石巻商 (延長11回) 2回戦 仙台二 0 - 5 気仙沼	
陸 上 競 技 部	県新人大会 〈男子〉 400MH 5位 増田俊太郎 3000M障害 4位 高橋仙一 5000MW 5位 吉田裕太 400MR 7位 三浦・宗像・阿部・菅原 〈女子〉 200M 3位 吉村 梢 400M 6位 吉村 梢 1600MR 8位 大友・吉村・野地・齋藤 走高跳 3位 金原恵太 7種競技 1位 渡邊朝美 東北新人大会 〈男子〉 3000M障害 13位 高橋仙一 走高跳 金原恵太 記録無し 〈女子〉 200M 吉村 梢 予選敗退 7種競技 1位 渡邊朝美	県総体 100M 阿部 耕大 3位 400M 菅原 大志 7位 400MH 増田俊太郎 3位 5000MW 吉田 裕太 8位 400MR 三浦・宗像・菅原・阿部 5位 1600MR 阿部・菅原・如岡・増田 6位 走高跳 金原 恵太 1位 走幅跳 大友 莉奈 5位 7種競技 渡邊 朝美 1位 東北総体 100M 阿部 耕大 予選敗退 400MH 増田俊太郎 準決勝敗退 400MR 三浦・宗像・菅原・阿部 準決勝敗退 1600MR 如岡・菅原・阿部・増田 準決勝敗退 走高跳 金原 恵太 記録無し 走幅跳 大友 莉奈 23位 7種競技 渡邊 朝美 2位 (インターハイ出場) 全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) 7種競技 渡邊 朝美 27位 県新人大会 100M 阿部 耕大 8位 200M 吉村 梢 8位 400M 阿部 耕大 4位 吉村 梢 5位 110MH 目黒 陸 6位 400MH 目黒 陸 6位 沼田 亮介 7位 5000MW 吉田 裕太 5位 宮澤あずみ 6位 400MR 堀・阿部・沼田・目黒 8位			

大会名 部 名	平成22年度		平成23年度	
	新 人 大 会 等		定期戦	総 合 体 育 大 会 等
陸 上 競 技 部				走高跳 金原 恵太 4 位 7 種競技 渡邊 朝美 1 位 東北新人大会 7 種競技 渡邊 朝美 1 位 走高跳 金原 恵太 4 位 全国高校駅伝予選大会 男子 11 位 女子 15 位
水 泳 部	<競泳> 県新人大会 男子 総合 第 3 位 (75点) 50m自由形 窪田平佑 第 2 位 100m自由形 窪田平佑 第 3 位 200m自由形 嶺岸大知 第 3 位 400m自由形 嶺岸大知 第 3 位 100mバタフライ 菅原崇広 第 4 位 400mリレー (嶺岸大知・菅原崇広 ・新富凌汰・窪田平佑) 第 3 位 400mメドレーリレー (櫻尾泰斗・安部 築 ・菅原崇広・窪田平佑) 第 4 位 (以上、東北新人大会へ) <水球> 決勝 仙台二 7-10 柴田 東北選手権大会 (11月12日～14日 秋田県立総合プール) 第 5 位 (5 チーム中)			<競泳> 県総体 男子 総合 3 位 (63点) 50m自由形 窪田平佑 第 2 位 100m自由形 窪田平佑 第 2 位 200m自由形 嶺岸大知 第 4 位 400m自由形 嶺岸大知 第 5 位 100mバタフライ 菅原崇広 第 7 位 200m平泳ぎ 安部 築 第 8 位 200m個人メドレー 菅原大貴 第 8 位 400mリレー (嶺岸大知・菅原崇広 ・新富凌汰・窪田平佑) 第 3 位 800mリレー (窪田平佑・菅原崇広 ・新富凌汰・嶺岸大知) 第 3 位 400mメドレーリレー (櫻尾泰斗・五十嵐祐樹 ・菅原崇広・窪田平佑) 第 3 位 以上、東北大会へ (7月22～24日 秋田市) 東北大会 50m自由形 窪田平佑 第 4 位 (入賞) 100m自由形 窪田平佑 第 7 位 400mリレー (嶺岸大知・菅原崇広 ・新富凌汰・窪田平佑) 第 9 位 <水球> 県総体 決勝 仙台二 5-26 柴田 東北総体兼インターハイ予選 リーグ戦 仙台二 3-27 柴田、 仙台二 1-39 山形工、 仙台二 9-6 秋田西、 仙台二 2-26 黒沢尻工 5 チーム中第 4 位。
サ ッ カ ー 部	地区予選 仙台二 3-0 明成 仙台二 0-0 聖和 代表決定戦 仙台二 5-0 仙台商 県大会 (県ベスト16) 1 回戦 仙台二 6-1 小牛田農林 2 回戦 仙台二 0-2 榴ヶ岡			県総体 (県ベスト 8) ・地区予選なし ・県大会 1 回戦 仙台二 7-0 黒川 2 回戦 仙台二 1-1 仙台三 P K 5-4 3 回戦 仙台二 2-1 榴ヶ岡 準々決勝 仙台二 1-5 聖和
ラ ゲ ビ ー 部	予選リーグ 仙台二・石巻合同 7-15 仙台三 仙台二・石巻合同 69-0 高専名取・広瀬合同 仙台二・石巻合同 17-19 気仙沼向洋			県総体 ○Aブロック (石巻高・仙台南高との合同) 1 回戦 合同 A (15-0) 気仙沼向洋高校 勝ち 2 回戦 合同 A (10-20) 利府高校 負け ○Bブロック 準決勝 仙台二 (5-5) 東北学院 抽選勝ち 決 勝 仙台二 (41-5) 石巻 優勝 全国高校ラグビー大会県予選 2 回戦 仙台二 (7-40) 古川工業 負け
ハ ン ド ボ ー ル 部	県新人大会 県ベスト 8 1 回戦 抽選により無し。 2 回戦 仙台二 24-17 仙台育英 準々決勝 仙台二 14-32 富谷 (第 2 シード)		仙台二 仙台一 21 ⁽¹²⁻¹⁸⁾ ₍₉₋₁₇₎ 35 負け	県総体 (県ベスト 8) 1 回戦 仙台二 40 ⁽¹⁹⁻⁶⁾ ₍₂₁₋₆₎ 12 仙台商業 2 回戦 仙台二 39 ⁽²²⁻¹¹⁾ ₍₁₇₋₁₁₎ 22 仙台育英 準々決勝 仙台二 21 ⁽¹⁶⁻¹⁵⁾ ₍₆₋₂₅₎ 40 聖和 県国体予選 (県ベスト 8) 2 回戦 仙台二 (第 6 シード) 27 ⁽¹⁷⁻⁹⁾ ₍₁₀₋₁₀₎ 19 名取北 準々決勝 仙台二 9 ⁽⁵⁻¹¹⁾ ₍₄₋₉₎ 20 富谷 (第 3 シード)
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	仙塩地区予選会 1 次リーグ 仙台二 68-83 仙台西 仙台二 60-82 東北 地区予選敗退		仙台二 仙台一 40-92 負け 通算成績 32 勝 29 敗	県総体 2 回戦 仙台二 55-48 白石工業 3 回戦 仙台二 86-28 高専広瀬 4 回戦 仙台二 75-66 石巻商業 5 回戦 仙台二 70-77 学院榴ヶ岡 ベスト 16
バ レ ー ボ ー ル 部	新人仙塩地区大会 1 次リーグ 仙台二 2-0 泉 仙台二 2-0 育英 仙台二 0-2 明成 2 次リーグ 仙台二 2-0 仙台工 仙台二 2-1 泉館山 3 次リーグ 仙台二 0-2 仙台商 仙台二 2-1 仙台一 仙台二 2-1 仙台 4 次リーグ 仙台二 1-2 東北学院 仙台二 1-2 明成 ※仙塩地区第 4 位 県新人大会 1 回戦 仙台二 2-1 白石 2 回戦 仙台二 0-2 東陵		仙台二 仙台一 0-3 負け 通算成績 29 勝 32 敗	県総体 1 回戦 仙台二 2-0 気仙沼向洋 2 回戦 仙台二 0-2 明 成 全日本バレーボール高校選手権大会宮城予選 ○1 次大会 1 回戦 仙台二 2-0 本吉響 2 回戦 仙台二 2-0 石巻 3 回戦 仙台二 2-0 仙台東 ○2 次大会 1 回戦 仙台二 2-0 仙台 準々決勝 仙台二 0-2 古川工業 (ベスト 8)
テ ニ ス 部	県新人大会 団体の部 男子 1 回戦 仙台二 4-1 利府 2 回戦 仙台二 3-2 気仙沼向洋 3 回戦 仙台二 0-3 東北学院 ベスト 8 女子 1 回戦 仙台二 4-1 名取北 2 回戦 仙台二 3-2 仙台向山			県総体 ・団体の部 男子: 2 回戦 仙台二 2-0 鹿島台商 3 回戦 仙台二 2-0 石巻 準々決勝 仙台二 0-2 仙台商 ベスト 8 女子: 1 回戦 仙台二 2-0 気仙沼向洋 2 回戦 仙台二 2-1 榴ヶ岡

大会名		平成22年度		平成23年度	
部 名	新 人 大 会 等	定期戦	総 合 体 育 大 会 等		
テ ニ ス 部	3 回戦 仙台二 1 - 3 東陵 ベスト 8 個人の部 男子シングルス ザンペイフェル 3 回戦敗退 三浦 将也 3 回戦敗退 廣田 一貴 3 回戦敗退 加藤健太郎 2 回戦敗退 男子ダブルス 三浦・ザンペイフ 3 回戦敗退 廣田・小野 2 回戦敗退 加藤・澤田 1 回戦敗退 女子シングルス 荒井 理沙 5 回戦敗退 齋藤ぼたる 4 回戦敗退 蔡 絵里子 2 回戦敗退 菊池 絢音 1 回戦敗退 女子ダブルス 齋藤・菊池 3 回戦敗退 荒井・蔡 3 回戦敗退 日下・山内 1 回戦敗退		準々決勝 仙台二 2 - 0 名取北 準決勝 仙台二 0 - 2 東陵 3 位 ・個人の部 男子シングルス ザンペイフェル 3 回戦敗退 三浦 将也 2 回戦敗退 澤田 淳 2 回戦敗退 男子ダブルス 石川・加藤 2 回戦敗退 庄子・田子 2 回戦敗退 女子シングルス 齋藤ぼたる ベスト 8 (参加256名) 荒井 理沙 4 回戦敗退 蔡 絵里子 4 回戦敗退 女子ダブルス 荒井・蔡 3 回戦敗退 鈴木・山内 2 回戦敗退 県新人大会の結果 ・個人の部 男子シングルス 鎌倉健太郎 4 回戦敗退 神宮 大地 4 回戦敗退 菅原 大 2 回戦敗退 宮本 晴貴 1 回戦敗退 男子ダブルス 岡田・良元 1 回戦敗退 玉木・三浦 1 回戦敗退 酒井・千葉 1 回戦敗退 女子シングルス 蔡 絵里子 ベスト 16 鈴木 優希 4 回戦敗退 須藤香那恵 4 回戦敗退 吉田 実生 2 回戦敗退 女子ダブルス 蔡・鈴木 ベスト 8 山内・藤村 2 回戦敗退 熊谷・宮川 2 回戦敗退 ・団体の部 男子： 1 回戦 仙台二 2 - 3 仙台一 女子： 1 回戦 仙台二 5 - 0 仙台南 2 回戦 仙台二 3 - 2 常磐木 3 回戦 仙台二 1 - 3 仙台三 ベスト 8		
	ソフトテニス部	県新人大会 団体戦 2 回戦 仙台二 2 - 0 亘理 3 回戦 仙台二 2 - 0 柴田 4 回戦 仙台二 0 - 2 宮城広瀬 個人戦 1 回戦 下山・上山 1 - 4 古川工 2 回戦 千田・佐藤 4 - 0 生文大高 3 回戦 中島・名嶋 4 - 1 白石工 4 回戦 千田・佐藤 3 - 4 仙台商 5 回戦 千田・佐藤 0 - 4 東北 ベスト 16		県総体 団体戦 2 回戦 対石巻好文館 ③ - 0 3 回戦 対仙台北 ② - 0 4 回戦 対白石工業 ② - 0 準々決勝 対仙台三 1 - ② ベスト 8 個人戦 1 回戦 大塚(2年)・姉術(2年) 対石巻 3 - ④ 小田島(1年)・赤間(2年) 対登米 1 - ④ 下山(2年)・門間(2年) 対迫桜 2 - ④ 2 回戦 中島(2年)・名嶋(2年) 対石巻工 ④ - 1 千田(3年)・佐藤(3年) 対塩釜 ④ - 0 3 回戦 中島・名嶋 対仙台三 2 - ④ 千田・佐藤 対石巻工 ④ - 0 4 回戦 千田・佐藤 対東北学院 ④ - 2 5 回戦 千田・佐藤 対古川工 1 - ④ ベスト 16	
卓 球 部	男子団体戦 2 回戦 仙台二 3 - 0 涌谷 3 回戦 仙台二 1 - 3 聖和 ベスト 16 男子ダブルス 1 回戦 佐藤・佐久間 3 - 1 高橋・大橋 (白石工) 2 回戦 佐藤・佐久間 2 - 3 櫻井・遠藤 (石巻) ベスト 16 男子シングルス 1 回戦 菅原 3 - 2 大友 (佐沼) 嵯峨 2 - 3 須藤 (古川) 2 回戦 菅原 0 - 3 斎藤 (東北) 佐藤 3 - 2 小松 (石巻商) 佐久間 3 - 0 中川 (古川工) 3 回戦 佐藤 3 - 0 白鳥 (古川) 佐久間 1 - 3 佐藤 (宮城工) 4 回戦 佐藤 3 - 1 小林 (仙台北) 5 回戦 佐藤 1 - 3 相澤 (古川工) ベスト 16 女子シングルス 2 回戦 和賀 3 - 1 高橋 (石巻市女) 3 回戦 和賀 0 - 3 天野 (塩釜)		県総体 女子団体戦 仙台二 2 - 3 石巻 1 回戦敗退 女子シングルス 2 回戦 和 賀 1 - 3 三浦 (常盤木) 男子団体戦 仙台二 3 - 0 柴田 仙台二 0 - 3 古川学園 男子シングルス 1 回戦 佐 藤 3 - 0 吉 田 (白石工) 2 回戦 佐 藤 3 - 0 山 本 (志津川) 阿 部 3 - 2 齋 谷 (名取北) 三 浦 2 - 3 熊 谷 (迫 桜) 嵯 峨 1 - 3 武 田 (白石工) 3 回戦 佐久間 3 - 1 後 藤 (佐 沼) 佐 藤 3 - 1 後 藤 (佐 沼) 阿 部 1 - 3 倉 持(仙台育英) 佐久間 0 - 3 川 畑 (古川学園) 4 回戦 佐 藤 3 - 0 五十嵐 (多賀城) 5 回戦 佐 藤 0 - 3 鎌 田 (古川学園) ベスト 16 東北大会代表決定戦 佐 藤 2 - 3 市 川 (聖 和) 男子ダブルス 1 回戦 嵯峨・佐久間 3 - 1 鈴木・佐藤 (白石工) 佐藤・三浦 3 - 1 堀田・杉山 (石巻工) ベスト 16 2 回戦 嵯峨・佐久間 0 - 3 斎藤・菅野 (東 北) 佐藤・三浦 0 - 3 川畑・古内 (古川学園) ベスト 16 国民体育大会卓球競技宮城県予選会 男子シングルス 1 回戦 三 浦 3 - 1 守 屋 (階上中) 2 回戦 阿 部 1 - 3 佐 藤 (白石工) 三 浦 3 - 0 針 生 (柴田農川崎) 佐 藤 3 - 0 吉 田 (石巻工) 佐久間 3 - 0 佐 藤 (築 館)		

部 名	大会名	平成22年度		平成23年度	
		新 人 大 会 等		定期戦	総 合 体 育 大 会 等
卓 球 部					3 回戦 三 浦 0 - 3 相 澤 (石巻商) 佐 藤 3 - 1 布 田 (東 北) 佐 久 間 3 - 1 高 橋 (小牛田中) 4 回戦 佐 藤 3 - 0 相 沢 (仙台高専名取) 佐 久 間 1 - 3 早 坂 (古川学園) 5 回戦 佐 藤 3 - 0 菅 原 (古川学園) ベスト8 6 回戦 佐 藤 3 - 0 斎 藤 (古川学園) ベスト8 代表決定リーグ戦へ進出 代表決定リーグ戦 佐 藤 2 - 3 三野宮 (迫 桜) 佐 藤 2 - 3 平 山 (古川学園) 佐 藤 3 - 2 土 田 (高清水中) 佐 藤 3 - 1 相 澤 (古川工) 佐 藤 0 - 3 川 畑 (古川学園) 佐 藤 3 - 2 鎌 田 (古川学園) 佐 藤 3 - 0 菅 野 (東 北) 第3位 第38回東北総合体育大会卓球競技 (少年男子) 代表に決定 全日本卓球選手権ジュニアの部宮城県予選会 男子シングルス 1 回戦 阿 部 3 - 0 大 友 (古 川) 高 内 1 - 3 黄川田 (石巻商) 星 1 - 3 長谷川 (古 川) 2 回戦 佐久間 3 - 0 吉 田 (石巻工) 佐 藤 3 - 0 川 合 (松山三本木スポ少) 阿 部 0 - 3 星 (仙台ジュニア) 三 浦 3 - 1 坪 井 (浦谷) 3 回戦 佐久間 3 - 0 岩 間 (白石) 佐 藤 3 - 0 三 浦 (仙台育英) 三 浦 2 - 3 浅 利 (蒲町中) ベスト64 4 回戦 佐久間 1 - 3 古 内 (古川学園) ベスト32 佐 藤 3 - 0 竹 田 (聖和) 5 回戦 佐 藤 3 - 1 川 田 (東北学院) 6 回戦 佐 藤 0 - 3 古 内 (古川学園) ベスト8 →代表決定戦 全国大会代表決定戦 佐 藤 3 - 1 土 田 (高清水中) 佐 藤 3 - 0 相 澤 (石巻商) 全日本卓球選手権大会宮城県代表決定 第4回若柳会長杯争奪高等学校新人卓球大会 男子団体 第3位 男子シングルス 佐藤泰史 優勝 平成23年度宮城県高等学校新人卓球大会仙塩地区予選 男子シングルス 佐藤・佐久間・阿部・星・三浦 県大会出場 男子ダブルス 佐藤・三浦 第1位 佐久間・阿部 県大会出場 男子団体 決勝トーナメント 仙台二 3 - 0 学院榴ヶ岡 仙台二 3 - 2 東北学院 仙台二 3 - 2 東 北 仙塩地区 第1位 全日本卓球選手権一般の部宮城県予選会 男子シングルス 佐藤泰史 第4位 全日本卓球選手権大会 (一般の部) 宮城県代表決定
バドミントン部	個人戦 (10月25日～26日 セキスイハイムスーパーアリーナ) 男子ダブルス 武内貴裕・岩間智紀組 2 回戦進出 女子ダブルス 小成田遥・佐藤麻衣組 3 回戦進出 男子シングルス 石村 遼 2 回戦敗退 女子シングルス 小柳志織 2 回戦敗退 団体戦 (11月7日～ 塩竈市体育館) 男子 1 回戦 仙台二 1 - 3 泉 女子 2 回戦 仙台二 2 - 3 仙台向山				宮城県バドミントン選手権大会 震災のため中止 県総体 学校対抗戦 (6月4日 仙台商業高校・尚絅学院高校) 男子 1 回戦 仙台二 3 - 2 仙台向山 2 回戦 仙台二 0 - 3 東北学院 (岩間智紀・武内貴裕・太田紘貴・石川周・石村遼) 女子 1 回戦 仙台二 3 - 0 仙台三 2 回戦 仙台二 3 - 2 宮城農 3 回戦 仙台二 0 - 3 聖ウルスラ学院英智 (第1シード) (佐藤麻衣・小成田遥・小柳志織・小形恵理・伊藤咲葉) 個人戦 男子ダブルス (6月5日 仙台商業高校・泉高校) 太田紘貴・石川周組 2 回戦進出 岩間智紀・武内貴裕組、石村遼・大沢溪組、沼畑貴生・佐藤紘組 1 回戦敗退 女子ダブルス (6月5日 尚絅学院高校・常盤学園高校) 小柳志織・小形恵理組 3 回戦進出 白井千緒美・川端泉穂組 2 回戦進出 小成田遥・佐藤麻衣組、久保夏樹・加藤英理組 1 回戦敗退 男子シングルス (6月6日・6月11日 仙台商業高校・泉高校・塩釜高校) 武内貴裕・石村遼 2 回戦進出 岩間智紀、沼畑貴生 1 回戦敗退 女子シングルス (6月6日・6月11日 常盤学園高校・尚絅学院高校) 小柳志織、佐藤麻衣 2 回戦進出 小成田遥、伊藤咲葉 1 回戦敗退
弓 道 部	仙塩地区秋季大会 男子団体 A チーム 予選40射24中で予選通過				県総体 団体男子 1 次予選 (20射 6 中が通過ライン) 20射13中で45校中 3 位通過

大会名		平成22年度		平成23年度	
部 名		新 人 大 会 等	定期戦	総 合 体 育 大 会 等	
弓 道 部		決勝トーナメント 1 回戦 仙台二16-13東北学院 準決勝 仙台二10-9 仙台一 決 勝 仙台二13-10宮城工 個人 予選通過者 男子 6 名 (廣澤・加藤・浅野・木村・小島・新妻) 個人決勝進出者 廣澤 16射14中で遠近競射の結果 第 3 位 県新人大会 団体男子 (廣澤・加藤・浅野・植木・木村・檜尾・新妻) 1 次予選 1 位通過 2 次予選 1 位通過 準々決勝 1 位通過 順 決 勝 1 位通過 決勝リーグ 第 1 試合 仙台二15-10泉 第 2 試合 仙台二15-11宮城工 第 3 試合 仙台二13-15東北学院 第 4 試合 仙台二15-12宮城農 東北選抜大会出場決定、射道審査 優秀賞 (第 2 位) 団体女子 (菅原・羽生・土居・肺崎・熊倉・池田・橋本) 2 次予選敗退 個人 1 次予選通過 廣澤・加藤・浅野・木村 2 次予選通過 加藤・浅野 準々決勝 準決勝 通過 加藤 決 勝 加藤海輝 5 位タイ 遠近競射で 5 位 結 果 加藤海輝 第 5 位		2 次予選 (1 次予選との40射合計の上位16位タイまでが通過) 20射11中 計40射24中で 5 位通過 準々決勝 (積み上げて60射合計の上位 8 位タイまでが通過) 20射11中 計60射35中で 8 位通過 準決勝 (積み上げて80射合計の上位5校が通過) 20射10中 計80射45中で8位不通過 団体女子 1 次予選 (20射 5 中が通過ライン) 20射 7 中で46校15位通過 2 次予選 (1 次予選との40射合計の上位16位タイまでが通過) 20射12中 計40射19中で 6 位通過 準々決勝 (積み上げて60射合計の上位 8 位タイまでが通過) 20射11中 計60射30中で 4 位通過 準 決 勝 (積み上げて80射合計の上位 5 校が通過) 20射 4 中 計80射34中で 8 位不通過 個人 1 次予選 (積み上げて 8 射 6 中が通過ライン) 通過者 2 名 (男子のみ) 準々決勝 (積み上げて12射10位タイまでが通過) 廣澤一志 9 中で敗退 加藤海輝 9 中で敗退	
		県新人大会 団体戦 予選リーグ敗退 仙台二 0 - 4 宮城水産 仙台二 0 - 5 加美農業 仙台二 1 - 3 白石 個人戦 60kg級 24 菊地拓磨 1 回戦敗退 60kg級1816 柴田諒介 1 回戦敗退 73kg級2633 松本 完 3 回戦敗退 (ベスト16) 90kg級2818 小坂 徹 1 回戦敗退		県総体 団体戦 予選リーグ 2 位通過 仙台二 3 - 2 気仙沼 仙台二 0 - 5 高専名取 高専名取 5 - 0 気仙沼 仙台二 0 - 4 古川学園 決勝トーナメント 個人戦 60kg級 3412菊地拓磨 予選トーナメント敗退 60kg級 2622柴田諒介 予選トーナメント敗退 73kg級 3633松本 完 決勝トーナメント敗退 81kg級 3718小坂 徹 決勝トーナメント敗退	
柔 道 部		男子団体 予選リーグ 仙台二 5 - 0 米山 仙台二 2 - 0 仙台向山 決勝トーナメント 1 回戦 仙台二 2 - 1 古川 2 回戦 仙台二 3 - 2 仙台一 準々決勝 仙台二 0 - 2 東陵 ベスト 8 女子団体 予選リーグ 仙台二 0 - 1 石巻商業 仙台二 0 - 3 仙台三桜 予選リーグ敗退 男子個人戦 伊藤駿介 4 回戦敗退 佐藤 鴻 初戦敗退 女子個人戦 湯山春香 2 回戦敗退 関川琴美 初戦敗退		県総体 男子個人戦 伊藤駿介 5 回戦敗退 (ベスト16) 福重健作 5 回戦敗退 (ベスト16) 女子個人戦 湯山春香 2 回戦敗退 関川琴美 2 回戦敗退 男子団体戦 予選リーグ 対追桜高校 2 - 2 引き分け 対古川黎明高校 5 - 0 勝ち 本数差で予選敗退 女子団体戦 予選リーグ 対岩ヶ崎高校 2 - 3 で負け 対小牛田農林高校 0 - 5 で負け 予選敗退 国体予選会 男子個人戦 佐藤鴻 3 回戦敗退 向田哲志 3 回戦敗退 関川琴美 3 回戦敗退 湯山春香 3 回戦敗退 仙塩支部新人戦 男子団体戦 予選リーグ 対仙台東 3 - 2 で勝ち 対宮城広瀬 1 - 2 で勝ち 予選リーグ 1 位 決勝トーナメント 1 回戦 対仙台工業 2 - 1 で勝ち 準々決勝 対仙台三 0 - 4 で負け 女子団体戦 予選リーグ 対仙台三華 0 - 4 で負け 対仙台南 2 - 1 で勝ち 予選リーグ 2 位 決勝トーナメント 1 回戦 対仙台向山 3 - 0 で勝ち 準々決勝 対仙台 0 - 5 で負け	
		県新人大会 男子学校対抗 第 2 位 及川新平・木曾康平・手島航・塩野健太・佐藤匠 男子個人対抗フルール 及川新平 第 3 位 女子個人対抗フルール 望月 潤 第 5 位 選抜選手権県予選 男子団体 第 1 位 (北海道・東北予選会出場) 男子エベ 第 4 位 有川和志 男子サーブル 第 4 位 手島 航 女子サーブル 第 4 位 望月 潤		県総体 男子団体フルール 第 1 位 (インターハイ出場、東北大会出場) (及川新平、木曾康平、手島航、佐藤匠、阿部準也) 1 回戦: V - 2 (仙台南高) 準決勝: V - 1 (気仙沼高) 決 勝: V - 3 (東北工大高) 男子個人フルール 第 3 位 及川新平 (東北大会出場) 第 6 位 木曾康平 男子個人サーブル 第 3 位 手島 航 (東北大会出場) 女子団体フルール 1 回戦敗退 (望月潤、張替晶子、元井初音) 1 回戦: 2 - V (気仙沼高) 女子個人フルール 第 2 位 張替晶子 (インターハイ出場、東北大会出場) 第 6 位 望月 潤 女子個人エベ 第 3 位 張替晶子 (東北大会出場) 女子個人サーブル 第 3 位 望月 潤 (東北大会出場)	
フェンシング部				県総体 第 5 位 新人大会 第 4 位	
山 岳 部		第 7 位		県総体 開催中止 東北大会 ○男子FJ級デュエット競技 第 4 位	
ヨ ッ ト 部		県新人大会 関上フィッシャーナ ○男子FJ級ソロ競技 ・1558艇 (稲舟・浦生組) 第 5 位 ・1503艇 (乙竹・鈴木・伊藤組) 第 2 位			

大会名 部 名	平成22年度	平成23年度	
	新 人 大 会 等	定期戦	総 合 体 育 大 会 等
ヨ ッ ト 部			○男子FJ級ソロ競技 ・1558艇（稲舟・浦生組） 第9位 →インターハイ出場権獲得 ・1503艇（乙竹・鈴木組） 第8位 →インターハイ出場権獲得 ○女子FJ級デュエット競技 第7位 ○女子FJ級ソロ競技 ・999艇（鈴木・三浦組） 第11位 全国高校総体【インターハイ】 ○男子FJ級デュエット競技 第18位 ○男子FJ級ソロ競技 ・1558艇（稲舟・浦生組） 第43位 ・1503艇（乙竹・鈴木組） 第56位 国体予選 ○少年男子シーホッパー級SR ・稲舟 第2位 ○少年女子シーホッパー級SR ・鈴木 第5位 ○少年男子セーリングスビリッツ級 ・乙竹 鈴木組 第1位→山口国体出場権獲得!! ・稲舟 浦生組 第2位 ○少年女子セーリングスビリッツ級 ・鈴木 三浦組 第5位 第66回国民体育大会セーリング競技 ○少年男子セーリングスビリッツ級 ・乙竹 鈴木組 第27位 県新人大会 ○男子FJ級ソロ競技 ・1503艇（鈴木・伊藤組） 優 勝

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績 （平成23年10月まで）

部 名	成 績	部 名	成 績
美術部	第63回宮城県高等学校美術展 奨励賞 3年 モンタニョミチエ照葉 3年 松野優紀	写真部	第35回全国高等学校総合文化祭（福島大会）写真部門 文化連盟賞受賞「私が先に見つけたの。」2年 泉 佑季 第18回宮城県高等学校写真展 ○銅賞「のやき」 1年 鈴木雄大 ○入選「秋色賛歌」 2年 泉 佑季 ○入選「秋雲り」 1年 鈴木雄大 ○佳作「勝利にかけるそれぞれの思い」 2年 伊藤 耀
吹奏楽部	第24回定期演奏会（7/2宮城学院女子大学講堂） 全日本吹奏楽コンクール第54回宮城県大会予選仙台青葉・ 泉地区大会（7/23仙台サンプラザホール） 高等学校の部 銀賞 地区代表 全日本吹奏楽コンクール第54回宮城県大会（8/4東北学院 中・高等学校礼拝堂） 高等学校の部 銅賞 北陵祭オープニングセレモニー演奏 定禅寺ストリートジャズフェスティバル（9/10、11） エコボランティアとして参加	生物部	第64回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 2011年11月10日 「河川における自然浄化作用についての研究」 優秀賞 横内洗、横道順、吉田悠人、只野慧、大倉明弘 ※上記の研究は2011年度武田科学振興財団研究助成対象認 定されました。 「アメンボの振動に対する行動研究」 優秀賞 横内洗
物理部	学部「仙台・宮城」サイエンスデイ2011 「身近な物を使った物理の実験」4賞受賞 ＜流体科学研究所長賞＞ （東北大学流体科学研究所長 早瀬敏幸） ＜MELON賞＞ （財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク） ＜ミウラセンサー賞＞ （株式会社ミウラセンサー研究所 代表取締役 三浦賀一） ＜NEXT GENERATION 賞＞ （東北大学生命科学研究科NEXT Program チーム） 英国ケンブリッジサイエンスワークショップ（7月24日～ 30日）参加者 早坂美月	囲碁部	第5回全国選抜囲碁選手権大会（大阪商業大学・3月 中止） 九路盤大会：紺野 文敬 団体：主将：藤岡天斗、副将：紺野文敬、 三将：伊藤正樹 第35回高校総合文化祭囲碁部門（県代表決定戦・4月17・ 宮城一高） 宮城県代表：紺野文敬（3年）・藤岡天斗（2年） 第35回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権宮城県大会（7 / 2 仙二高北陵館） 団体 1位 仙台二高 全国代表決定 【藤岡天斗（2年）、紺野文敬（3年）、伊藤正樹（2年）】 第35回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権宮城県大会・個 人第二代表決定戦（7/3 仙二高北陵館） 個 人 藤岡天斗（2年） 全国個人戦 宮城県第二代表決定 第35回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会（7/25～27 日本棋院） 予選リーグ2勝1敗（予選敗退） 宮城県団体代表（藤岡天斗六段、紺野文敬六段、 伊藤正樹五段）、 宮城県個人代表 藤岡天斗 予選リーグ 2勝1敗 （予選敗退） 第35回全国高等学校総合文化祭囲碁部門（8/4～5 福島県 福島市） 団体戦 28位（大將：藤岡天斗六段 副将：伊藤正樹五段） 個人戦 16位（宮城県代表 紺野文敬六段） 第12回宮城県高校囲碁九路盤大会（10/14 仙二高北陵館） 1位 伊藤正樹、3位 藤岡天斗、8位 京極自秀 第25回東北地区高等学校囲碁選手権大会（11/11～12 山 形県上山） 男子団体出場 （宮城県代表チーム 副将 藤岡天斗（2年）六段、三 將 伊藤正樹（2年）五段） 第48回学生十傑戦東北大会（10/8～9 北上市・大学生大 学院生中心の大会） 1位 藤岡天斗（東北地区初の高橋生優勝） 第48回全国大会出場（11/18～20 日本棋院）
地学部	英国ケンブリッジサイエンスワークショップ（7月24日～ 30日）参加者 徳田慎平 第64回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「新型投影機製作」 優秀賞「プラネタリウム投影用の新型ドームの製作」		
化学部	第18年全国高等学校デザイン選手権大会 3作品 出品（予選を全て通過） 英国ケンブリッジサイエンスワークショップ（7月24日～ 30日）参加者 日置 友智 第35回全国高等学校総合文化祭（ふくしま総文） 自然科学部門 文化連盟賞 「セレンディビティーによる教科書にはない金属酸化 物の合成」 山田学倫、安東沙綾、日置友智 全国高校化学グランプリ2011 銀賞 工藤章太郎 銅賞 鎌田有祐 高校生バイオサミット in 鶴岡2011 最優秀賞（科学技術振興機構賞） 日置友智、安東沙綾、大村啓貴、山田学倫 「特異な銀酸化物Ag ₂ O ₃ の抗菌、殺菌特性とその有 用性に関する研究」 化学オリンピック東北地区予選・宮城県代表 桃野幸文、鈴木潤、大村啓貴 化学オリンピック日本代表候補認定者 桃野幸文、大村啓貴、工藤章太郎		

部 名	成 績	部 名	成 績
化学部	全国高校化学グランプリ2011 東北支部長賞 櫻井一貴、玉懸直人、桃野幸文、 菊地拓磨（東北10位内） 第15回ボランティア・スピリット賞コミュニティ賞 受賞 宮城県仙台第二高等学校 化学部 （山崎知之、桃野幸文、大村啓貴） 第55回読売学生科学賞 中央審査 入選3等（本校3年連 続通算3回目の全国入選） 「濃硝酸の反応における色調変化」 鈴木潤、阿隅夢結、成田衛 第55回読売学生科学賞 →中央最終審査（全国大会）に進 出（本校初の入賞）中央最終審査12月22日～24日東京未来 館で発表審査 「銅(Ⅰ)水酸化物と光沢銅樹の生成～その銅樹、ちゃん と光ってますか!!～」 大村啓貴、針生崇史	将棋部	第47回全国高校将棋選手権宮城県大会 団体戦 優勝（3年 遠藤天太郎、1年 百々拓 1年 安部慎太郎） 個人戦（女子） 成田弥穂 全国大会出場 第47回全国高校選手権大会（福島県郡山市） 団体戦 準優勝 予選リーグ47校中4位で通過 決勝戦 岩手高校に惜敗 個人戦（女子） 参加選手89名中予選7位通過 決勝戦 立命館北村選手に惜敗 ※優秀選手として第24回竜王戦出場 女子選手として決勝トーナメント出場 1回戦 青木 翔（大宮高校3年）に惜敗 第28回宮城県高等学校将棋新人戦 準優勝 渡邊健太郎（2年） ※渡邊健太郎（2年）、成田弥穂（2年）、廣邊奈々（1年） は東北大会（山形県上市市）出場
ギター部	宮城県高校対抗バンド合戦（7/30） グランプリ（優勝） 薩摩祐大、橋爪洋樹、大西統輝、熊谷也寸志 同東京大会 準決勝（8/27）	書道部	第60回宮城県高等学校書道展（11月） 第一部（漢字） 推薦 野口美賀（1年） 特選 平間詩織（3年） 金賞 小野春奈（3年） 高橋 涼（2年） 星 愛美（1年） 遠藤夏実（2年） 高橋 涼（2年） 高橋 涼（2年） 第三部（漢字仮名書） 金賞 遠藤夏実（2年） 第四部（篆刻刻字） 特選 高橋 涼（2年） 第五部（一字書） 特選 高橋 涼（2年）
合唱部	第78回NHK全国学校音楽コンクール宮城県コンクール 奨励賞	その他	

陸上部
来 年 へ

二年八組

渡邊 朝美

まったく歯が立たなかった。競技を終えたあとの私は悔しさとより、ただ絶望感に溢れていた。全国という舞台でありにもちっぽけな自分を知った。

六月の東北高校陸上競技選手権大会で私は七種競技において二位に入りインターハイ出場を決めた。インターハイ出場は昨年から目標にしていたので、それだけでほっとしてしまっただころがあったのかもしれない。

そして迎えた八月。今年は岩手県での開催だったため、二高陸上部の皆が応援に来てくれた中で競技だった。

もともとランキングも低かったので失うものなど何もなく、ただ自己ベストを出すことだけ目標にして楽しく競技しようと思っていた。しかし、いざ競技が始まってみると、自己ベストどころか自己最低記録のペース。七種競技は二日間にわたって行われるのだが、一日目を終えた時点で、全国大会という大きすぎる舞台に疲れきってしまった私には、競技を楽しむ余裕など殆どなかった。

二日目、最終種目の八〇〇mで唯一自己ベストを出すことができたが、合計得点は酷いものであった。泣きたかった。今回は全く出ただけのイン

ターハイとなつてしまったが、私にはまだもう一度チャンスがある。今年叩きのめされたことは自分にとって良かったのだ。全国には強い人がたくさんいる。そんな人たちと共に競技をして、その強さへの憧れはさらに大きなものとなり、自分も全国の舞台で勝負したいという気持ちがより一層強くなった。もう、誰にも負けたくない。もっともっと強くなりたい。

これから来年への鍵となる冬季練習が始まる。妥協することなく、いつでも全力で取り組もうと思う。そして来年、新潟インターハイの舞台で、中学校の頃からの目標である全国入賞をぜひ達成したい。そして、大好きな陸上競技を心から楽しんでいこうと思う。

将棋部

全国大会に出場して

二年三組 成田 弥穂

私たち将棋部は、男子団体戦と女子個人戦の県予選で共に優勝し、八月四日と五日に福島県で行われた全国大会に出場してきました。

男子団体戦は、主将遠藤天太郎、副将百々拓、三将安倍慎太郎のメンバーで試合に臨みました。予選では強豪校である麻布高校に勝つことができた、三勝一敗で予選を通過しました。二日目に行われた準決勝では、藤枝明誠高校（静岡）に二対一で勝ち、決勝で

は岩手高校に惜しくも一対二で敗れてしまいました。しかし団体戦で全国準優勝という結果は、五年ぶりの快挙であったと思います。また、主将の遠藤が後輩たちの良かった指しまわしを褒めるなど、常に声をかけて雰囲気盛り上げていたので、悪い局面になったときでもあきらめずに、粘り強く指すことができました。チーム一丸となって戦い、三名それぞれが勝ち星を挙げられたことは何よりだったと思います。

女子個人戦では、成田弥穂が出場し、予選通過後、決勝まで進みました。決勝戦では落ち着いて指すことができたが、途中で攻め急いでしまい、力を出し切ることができなまま敗れました。準優勝という結果に終わり、とても残念でしたが、全体を通して自分らしい将棋を指すことができたと思います。

今年は東日本大震災の影響で全国大会の開催が危ぶまれました。県大会が開催されるかどうかもなかなか分からず、開催の決定を知ったときは嬉しさが胸一杯になったことを覚えています。全国大会では地元の高校生の復興に向けた前向きな声を直接聞き、同じ高校生として自分は何ができるのか、何をすべきなのかなど様々なことを深く考えさせられました。そして改めて将棋を指せることの喜びを感じました。

最後になりましたが、大変な状況の中で大会の開催にご尽力くださった関係者の皆様、そして応援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

フェンシング部

弱き己を斬る

三年三組 及川 新平

「これからは剣をふるいなさい。敵を切るためには、弱き己を斬るために。己を護るためではない、己の魂を護るために。」

これはとある漫画の私のお気に入りのセリフである。フェンシングは精神面が非常に大きなスポーツであるため、一番の敵は自分自身だ。この言葉を知った後、私も「弱き己を斬るため」の剣を持ち努力してきた。

今年のインターハイ、二高は男子団体と女子個人フルールで出場した。部全体で努力を重ね手にした県総体での男子団体の優勝は、実に四十七年ぶりの快挙であった。

フェンシングの会場は青森県むつ市で、競技場も海沿いであつたため、現地に着いたときにはけっこうな寒さを感じたのを覚えている。

二高の試合はまず女子個人フルールからだつた。しかしやはりインターハイとなるとほとんどが小・中学からの経験者ばかりであり、健闘したが予選敗退となつた。

男子団体一回戦の相手は石

川県の新沢西。私が勝てる試合を落とす、精神的に崩れそのまま三敗するも、チームメイトの奮闘でこの試合を5-4で制した。

二回戦は強豪の熊本県翔陽高校で、私達はもうやり切るだけだとふっ切れていた。全員で一丸となり精一杯戦ったが、0-5で完敗した。

私は一回戦、敗北におびえなく弱き己を斬ることができなかった。二回戦はどうだろうか、やはり斬れなかった気もするし、少し己と戦えた気もする。弱き己というのは、このような場合はもちろん、何を

結果は予選敗退。わずかに四戦で私のインターハイは幕を閉じた。非常に恥かしい結果である。私がインターハイに出た時点で奇跡のようなことだから、当然の結果なのかもしれない。それでも私は悔しかった。もっと強い人と戦いたかった。勝って、支えてくれた人に良い報告がしたかった。リードしてから負けたり、

最後に、お世話になりました須田先生、奥山先生、加畑コーチ、OBの方々、皆様に感謝と御礼を。本当にありがとうございました。

一点二点の差を返せなかったのはただ実力が足りなかったからだ。体は朝から動いていた。インターハイだから、優勝した選手だから、とは思えない。結果には納得しているし、強い選手と戦えて嬉しくも楽しくもあった。でも満足はしていない。出来ることは

予想外

予想外

三年七組 張替 晶子

何人が私のインターハイ出場を予想しただろうか。

私は決して強くはなかった。今迄の成績も冴えなかった。予想外、ノーマーク、神がかり等々言われたが、何も異論はない。私は幸運だっただけだ。七月二十九日より青森県む

輩が、可愛い後輩がいた。背中を追いかけていられないよう必死だった。ご指導頂いた加畑さん、叱り励ましほめてくれた須田先生、様々なサポートをして下さった奥山先生、退職なさった鈴木るり子先生、ご支援下さったOBの先輩方、全ての皆様に心より感謝申し上げます。迷惑かけっ放しの両親にも。

最後に、唯一の同学年女子の望月に。ありがとう。

化学部

ケンブリッジ サイエンス ワークショップ

三年四組 日置 友智

私は今年の夏に二週間ほどケンブリッジ大学でのサイエンスワークショップに参加する機会を頂きました。私が参加したプログラムでは、福島原発の事故に関連して、放射線が人体に与える影響について学習しました。その中で、放射性元素が人間の身体の中でどのように害をもたらしているか、どの量が安全と言えるか、どの量が安全と言えるか、などを学び、考えることができました。また、このプログラムは毎回一時間ほどの講義の後、イギリスの学生も含めたプログラムのメン

この研修旅行で学んだことは、最低限の責任を果たすことと自由が与えられる」と解釈していましたが、それは違うのではないかと考えさせられました。イギリスの学生達は「自由を行使した上でそのことに責任を持つ」ことを当然のこととしていたからです。これでは他人への気遣いや、義務感を見失いがちになるようにも思えますが、それらは自分に負担にならない範囲で行うようにするのがいい。つまり、負担にならない範囲が広い、すなわち余裕のある人間になるといえることです。帰国してからこの考え方は常に意識しています。

は学術的な内容だけにとどまりません。私はこれまで「自由に責任が伴う」という言葉を「最低限の責任を果たすことと自由が与えられる」と解釈していましたが、それは違うのではないかと考えさせられました。イギリスの学生達は「自由を行使した上でそのことに責任を持つ」ことを当然のこととしていたからです。これでは他人への気遣いや、義務感を見失いがちになるようにも思えますが、それらは自分に負担にならない範囲で行うようにするのがいい。つまり、負担にならない範囲が広い、すなわち余裕のある人間になるといえることです。帰国してからこの考え方は常に意識しています。



ローカル線の旅

る人間になれるよう努めていきたいと思っています。
最後に、この企画を支援、計画してくださった皆様、引率の先生方に心から感謝申し上げます。

ヨット部

震災を乗り越えて

三年六組 乙竹 秀明

七月十八日、東北大会最終レース。それは感動の逆転劇だった。忘れることのできない、仙台・高が二艇のインターハイ出場、そして国体出場を決めたレースだ。

第五レースでは、インターハイ出場枠が九艇の中、二高Bが八位、一高Aが十位であった。しかし、最終第六レースで二高Aが九位に上がり、みごと二艇ともに枠にはいることができた。感動の瞬間だった。

思えばあの三月十一日、実を言うとまだ自分自身やヨット部の状況を全く理解していなかった。そのときハーバーで何が起っていたかなんてことは全く想像できなかった。だから初めて全ての舟を失い、ハーバーが壊滅したことを聞いたときは相当な衝撃を受けた。そしてしばらくしてから自分でハーバーに行き、この目での惨状を見たときに初めて状況を理解したのだった。そんな中、ヨット部復活への第一歩の機会をくれたのは天野先生とOBだった。それからは様々な支援、応援を全

国の方々から頂き、一歩二歩と復活へと進み、ついにはインターハイと国体の両方の出場を掴み取ることができた。迎えたインターハイでは、全国のレベルの高さに圧倒され、そして大会の規模にも相応に驚いた。そして全てを出し切り、自分のレベルも把握できた。このような全国で戦えるという経験はほんとうに貴重なものであるし、誇りに思っている。

そして今年はいもう一つの全国大会が待っていた。国体である。こちらは高校生だけのインターハイとは違い、全国の有名な選手やオリンピック選手もいた。結果としては、ミスをしたレースで惜しいレースもあったので、悔しさは残ったが、レースを楽しむことができた。世界でもトップクラスという環境の中でレースができ、本当に充実した大会となった。

このような結果を残せたのも先生方、OBをはじめ全国の皆様の支援のおかげである。心から感謝を申し上げたい。

会員計報

8 / 2	1 / 24	平成 18年	7 / 21	3 / 29	平成 17年	5 / 8	平成 8年
馬場	豊島		大川 原政	佐伯 守人		村岡	
敏之	謙一					哲	
高 6回	中 44回		高 10回	中 35回		中 28回	

4/13	4/12	4/4	4/1	4/1	3/31	3/21	3/19	3/15	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/11	3/6	2/22	2/14	1/30	1/4	平成23年	12/29	12/16	11/15	10/26	10/20	10/19	8/25	8/2	7/13	6/3	2/13	2/29	平成22年	3/24	3/7	平成21年	3/24	1/18	平成19年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
森	奥田	氏家	砂子	山崎	角田正二郎	杉目俊夫	増沢重紀	清水定穂	槻館泰寛	細目幸一	鈴木捷二	千葉規	高橋三千彦	鈴木幹也	菅野達郎	深堀修司	槻田正明	丹野恒雄	浜岡長次郎		綿貫健次郎	那須甫治	鈴木哲雄	門間壽	矢部一郎	村井嘉平	大内義雄	和泉正樹	志村修	古川喜雄	山本拓	菊田純夫		小原仰	羽田兵吉		佐藤良治	和田康彦																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
治夫	広男	和国	芳照	隆																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			



二高への交通の便

<仙台駅前から>

▶仙台市営バス・・仙台駅前バスプール16番から730、739系統『二高・県美術館前』下車、運賃180円

▶仙台市営市内観光循環バス『るーぶる仙台』・・仙台駅前バスプール15-3番、運賃（1回券）250円、（1日券）600円。但し、瑞鳳殿、大橋、青葉山、八幡神社等とを大きく経由してから二高前に到達、但し、目下の所大震災による道路損傷の為、大橋―青葉城間は迂回ルートを経由。

10 5	9 20	9 12	8 28	7 25	7 21	7 13	7 9	6 1	6 13	6 9	6 7	6 3	5 3	5 29	5 25	5 22	5 18	5 14	5 11	5 2	5 2	4 29	4 22	4 15
佐伯	高橋	庄子	橘高	三浦	伊藤	斎藤	高橋	服部	田沼	高橋	内藤	朝倉	菊地	富沢	蘇武	近江	勝山	金丸	海老名	塩出	北村	三津浜	佐藤	高橋
和彦	篤郎	俊一	吉人	勝彦	吉信	信雄	信一	正年	潔				弘直	忠雄	康太	幸夫	佳生	一男	俊一	英広	直哉	禎	昭二	
中45回	中43回	中44回	中44回	中高23回	中高44回	中44回	中44回	中43回	中40回	中30回	中31回	中40回	中30回	中36回	中高6回	中高2回	中45回	中40回	中高13回	中高9回	中38回	中45回	中45回	

次号（平成二十四年春季号）

次号への投稿御希望の方は、平成二十四年四月二十日（金）まで同窓会事務局宛に原稿をお届け下さい。（会報担当）

編／集／後／記

七月の理事改選後、初めての会報発行です。理事会は、同窓会活動、同窓会のまとまりと活性化に会報を積極的に活用したいと考えています。紙幅に限りはありますが、多彩な記事をそろえ、同窓生や現役生の姿ができるだけ浮かび上がるような会報を目指します。

同窓会の皆さんも、会報に対するご投稿とご意見を積極的にお寄せください。皆さんの協力なしには生き生きとした会報になりません。どうぞ、よろしく願います。（高30回 高橋 敦）